

**令和5年度 全国学力・学習状況調査**

**調査結果のポイントについて**

**～北海道（公立）における調査結果～**

**北海道教育委員会  
令和5年（2023年）7月31日**

## 【 目 次 】

1. 調査の概要 .....	1
2. 結果の概要 .....	2
■ 教科に関する調査	
■ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 〈授業改善、自己有用感等、家庭学習等、検証改善サイクル、英語の授業〉	
3. 教科に関する調査	
■ 小学校〈国語、算数〉.....	4
■ 中学校〈国語、数学、英語〉.....	8
4. 質問紙調査 .....	14
5. 1人1台端末の活用について.....	22
【参考】札幌市を除く北海道の調査結果 .....	26

# 1. 調査の概要

## 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

## 3 調査の内容

- 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語（中学校）〕  
次の①と②を一体的に問う調査問題
  - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
  - ② 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

## 4 調査の方式

悉皆調査

## 5 調査の実施日

令和5年(2023年)4月18日(火) ※英語「話すこと」調査は4月18日(火)～5月26日(金)

## 6 令和5年(2023年)4月18日(火)に調査を実施した学校数・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	951	947(99.6%)	35,657	小学校	18,672	18,641(99.8%)	964,350
中学校	574	571(99.5%)	34,259	中学校	9,408	9,369(99.6%)	893,114
合計	1,525	1,518(99.5%)	69,916	合計	28,080	28,010(99.8%)	1,857,464

※ 札幌市を含む。

※ 実施学校数は、4月18日に調査を実施した数。

※ 児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

## 【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果の全てを表すものではなく、中央値\*1、標準偏差\*2等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに北海道教育委員会が独自に算出した小数値で示している。
- 中学校英語の結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」について示している。「話すこと」については、参考値として国が公表している全国推定値を示している。

\*1 中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

\*2 標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。

## 2. 結果の概要

### ■ 教科に関する調査

#### ○ 平均正答率の比較

- ・ 小学校は、全ての教科で全国との差が1.5ポイント以内（令和4年度2.1ポイント以内）。
- ・ 中学校は、全ての教科で全国との差が1.7ポイント以内（令和4年度2.5ポイント以内）。

#### 各教科の平均正答率

			小学校		中学校		
			国語	算数	国語	数学	英語
平均正答率 (%)	R5	道	<b>66 [65.8]</b>	<b>61 [61.0]</b>	<b>69 [69.4]</b>	<b>49 [49.3]</b>	<b>44 [43.9]</b>
		国	67[67.2]	63[62.5]	70[69.8]	51[51.0]	46[45.6]
	R4 (H31)	道	64[64.4]	61[61.1]	69[68.6]	49[48.9]	54[54.2]
		国	66[65.6]	63[63.2]	69[69.0]	51[51.4]	56[56.0]
平均正答数 (問)	R5	道	<b>9.2/14</b>	<b>9.8/16</b>	<b>10.4/15</b>	<b>7.4/15</b>	<b>7.5/17</b>
		国	9.4/14	10.0/16	10.5/15	7.6/15	7.7/17
	R4 (H31)	道	9.0/14	9.8/16	9.6/14	6.9/14	11.4/21
		国	9.2/14	10.1/16	9.7/14	7.2/14	11.8/21

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値〔道教委が独自に算出した小数値〕

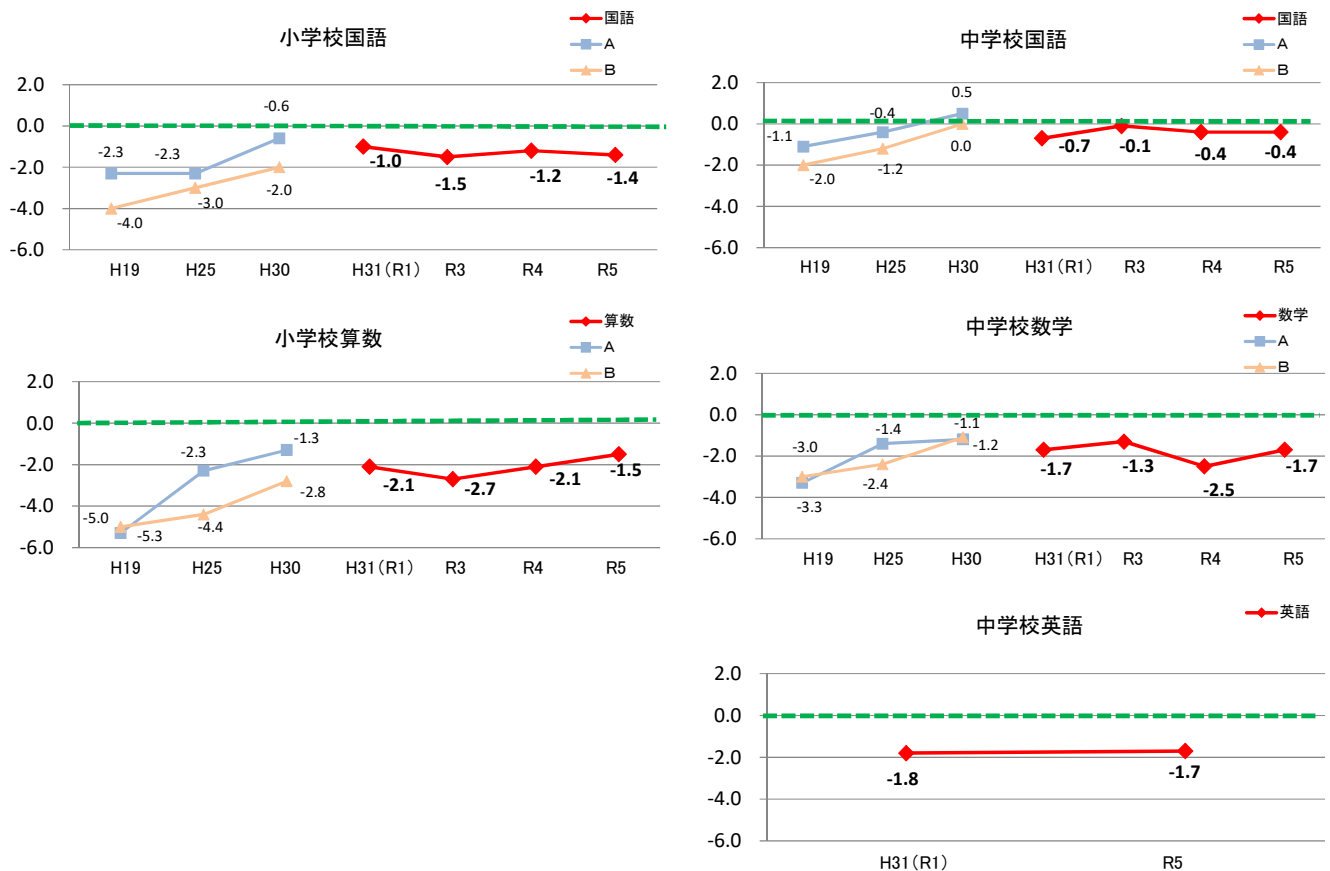
※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値〔国が公表した小数値〕

※ 国語・算数（数学）については、上段は令和5年度、下段は令和4年度、英語については、上段は令和5年度、下段は前回調査のあった平成31年度（令和元年度）の結果。

※ 中学校英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。

【参考】中学校英語「話すこと」調査の結果（全国（国公私）推定値）：平均正答率（%）12〔12.4〕、平均正答数（問）0.6/5

#### 全国と北海道の平均正答率の差



※ 数値は、「北海道（公立）の平均正答率－全国（公立）の平均正答率」の差で算出。

## ■生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

		授 業 改 善			
児童生徒質問紙	① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒の割合 (小33、中37)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	30.1 %	( 30.7 % )	-0.4	( +0.2 )
	中	29.9 %	( 30.5 % )	-0.5	( -0.7 )
学校質問紙	② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童生徒の割合 (小36、中40)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	38.8 %	( 38.3 % )	+0.2	( +0.6 )
	中	33.6 %	( 33.6 % )	-0.7	( -0.5 )
児童生徒質問紙	③ 自校の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う学校の割合 (小26、中26)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	32.7 %	( 31.9 % )	+11.3	( +12.6 )
	中	25.3 %	( 24.9 % )	+6.1	( +5.7 )
学校質問紙	④ 児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う学校の割合 (小29、中29)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	25.8 %	( 21.9 % )	+8.4	( +6.8 )
	中	26.0 %	( 24.2 % )	+5.7	( +3.9 )

		自 己 有 用 感 等			
児童生徒質問紙	⑤ 自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合 (小4、中4)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	39.2 %	( 35.8 % )	-3.4	( -3.6 )
	中	37.7 %	( 36.2 % )	+0.5	( +0.2 )
学校質問紙	⑥ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 (小7、中7)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	59.8 %	( 59.2 % )	-1.0	( -1.2 )
	中	40.1 %	( 39.9 % )	+0.7	( +0.1 )
児童生徒質問紙	⑦ 児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組をよく行った学校の割合 (小13、中13)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	66.7 %	( 67.1 % )	+5.9	( +8.1 )
	中	58.7 %	( 62.6 % )	+3.9	( +7.4 )
学校質問紙	⑧ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行った学校の割合 (小11、中11)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	31.9 %	( 32.0 % )	+11.5	( +11.6 )
	中	56.4 %	( 60.1 % )	+6.9	( +9.2 )

		家 庭 学 習 等			
児童生徒質問紙	⑨ 家で自分で計画を立てて勉強をよくしている(学校の授業の予習や復習を含む)児童生徒の割合 (小16、中16)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	32.6 %	( 33.3 % )	+3.9	( +5.8 )
	中	16.1 %	( 16.7 % )	+0.8	( +1.3 )
学校質問紙	⑩ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合 (小17、中17)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	52.4 %	( 56.6 % )	-4.7	( -2.8 )
	中	59.0 %	( 63.6 % )	-6.8	( -5.9 )
児童生徒質問紙	⑪ 家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える取組をよく行った学校の割合 (小76、中84)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	62.1 %	( 67.3 % )	+18.1	( +18.6 )
	中	39.0 %	( 48.3 % )	+8.1	( +10.1 )
学校質問紙	⑫ 家庭学習の課題の課し方について、校内で教職員で共通理解を図る取組をよく行った学校の割合 (小75、中83) [R4は未実施]				
		R5	(R3)	R5 全国比	(R3 全国比)
	小	59.1 %	( 57.7 % )	+19.5	( +17.1 )
	中	35.7 %	( 39.0 % )	+6.0	( +5.0 )

		検 証 改 善 サ イ ク ル			
学校質問紙	⑬ 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合 (小19、中19)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	58.4 %	( 46.2 % )	+19.2	( +16.9 )
	中	54.5 %	( 49.0 % )	+19.1	( +20.2 )
学校質問紙	⑭ 令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、学校全体で教育活動を改善するためによく活用した学校の割合 (小78、中86)				
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)
	小	54.1 %	( 56.4 % )	+21.0	( +26.5 )
	中	52.2 %	( 53.6 % )	+27.5	( +30.0 )

		英 語 の 授 業			
生徒質問紙	⑮ 英語の授業中、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をよく行った生徒の割合 (中71)				
		R5	(H31(R1))	R5 全国比	(H31(R1) 全国比)
	中	41.0 %	( 40.2 % )	-0.7	( +1.1 )
学校質問紙	⑯ 英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をよく行った学校の割合 (中54)				
		R5	(H31(R1))	R5 全国比	(H31(R1) 全国比)
	中	29.5 %	( 22.6 % )	+5.2	( +5.0 )

(グラフはp14～p21に掲載)

(校種番号)は質問番号

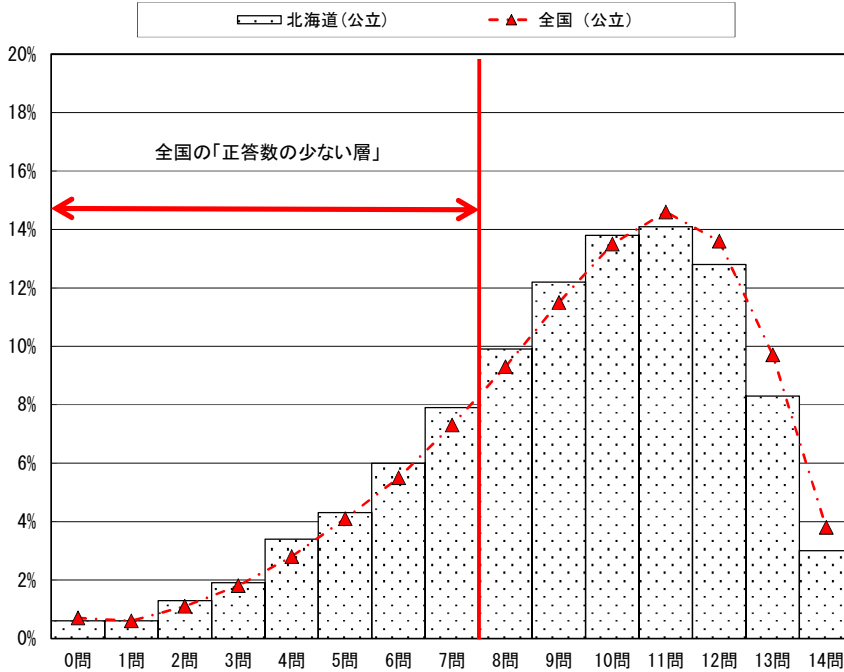
### 3. 教科に関する調査

#### ■ 小学校国語

##### 【概要】

- 平均正答率は 66 [65.8] %
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.4ポイント。

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	35,645	9.2 / 14	66 [65.8]	10.0	2.9
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67 [67.2]	10.0	2.9



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数 (児童の割合 (%))		
正答数 (正答率)	北海道	全国
14 問 (100.0%)	3.0	3.8
13 問 (92.9%)	8.3	9.7
△ 12 問 (85.7%)	12.8	13.6
11 問 (78.6%)	14.1	14.6
◇ 10 問 (71.4%)	13.8	13.5
9 問 (64.3%)	12.2	11.5
8 問 (57.1%)	9.9	9.3
▽ 7 問 (50.0%)	7.9	7.3
6 問 (42.9%)	6.0	5.5
5 問 (35.7%)	4.3	4.1
4 問 (28.6%)	3.4	2.8
3 問 (21.4%)	1.9	1.8
2 問 (14.3%)	1.3	1.1
1 問 (7.1%)	0.6	0.6
0 問 (0.0%)	0.6	0.7

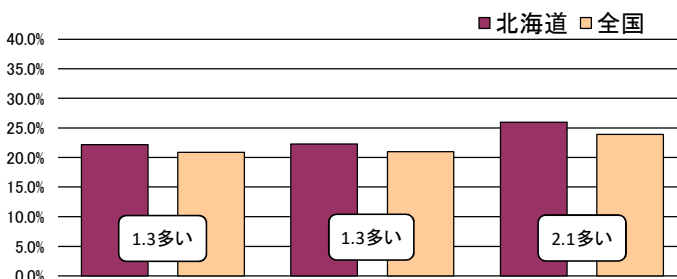
(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△11.0問	12.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問
第1四分位	▽7.0問	8.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

#### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



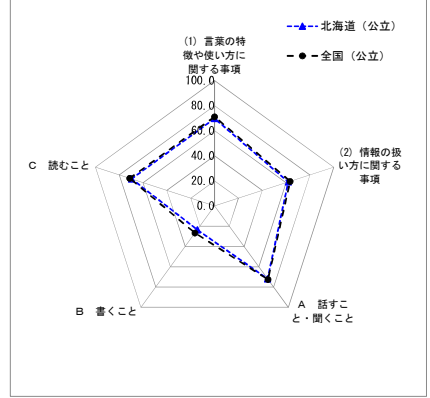
	R3		R4		R5	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	22.2%	20.9%	22.3%	21.0%	26.0%	23.9%
正答数	14問中 6問以下		14問中 6問以下		14問中 7問以下	
全国との差	1.3	多い	1.3	多い	2.1	多い

# 問題別調査結果 [小学校国語]

## 集計結果

対象学校数		北海道(公立)	全国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全国(公立)	
		940	18,618		35,645	964,177	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)				
			北海道(公立)	全国(公立)			
全体					14	66 [65.8]	67.2
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	69.7	71.2		
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	61.8	63.4		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力・判断力・表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	72.0	72.6		
B 書くこと		1	23.5	26.7			
C 読むこと		3	69.7	71.2			
評価の観点	知識・技能	7	67.4	68.9			
	思考・判断・表現	7	64.1	65.5			
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	9	72.5	73.6			
	短答式	2	60.1	62.7			
	記述式	3	49.2	51.1			

## <学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

## 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)				
			知識及び技能					思考力・判断力・表現力等			北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項			A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと				
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	5・6 ア					62.5	64.7	1.8	1.8			
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			5・6 エ			23.5	26.7	7.7	7.1			
1三 (1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ					51.6	52.8	4.9	4.8			
1三 (1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(まかん)		5・6 エ					68.6	72.6	7.6	6.7			
1三 (2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(くらべて)	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 ウ					92.7	93.1	0.9	1.0			
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5・6 カ					79.7	79.8	1.6	2.0			
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる			3・4 ウ			88.9	90.0	1.1	1.2			
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる			5・6 ウ			66.3	67.4	1.3	1.4			
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したのとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6 イ					61.0	62.0	1.4	1.6			
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができることをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			5・6 オ			53.9	56.2	9.0	8.5			
3一 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる			3・4 エ			72.6	73.6	3.4	3.7			
3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する				3・4 エ			73.2	74.0	3.6	4.1			
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			5・6 エ			70.2	70.2	14.4	14.3			
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5・6 キ					55.7	57.6	8.7	9.5			

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

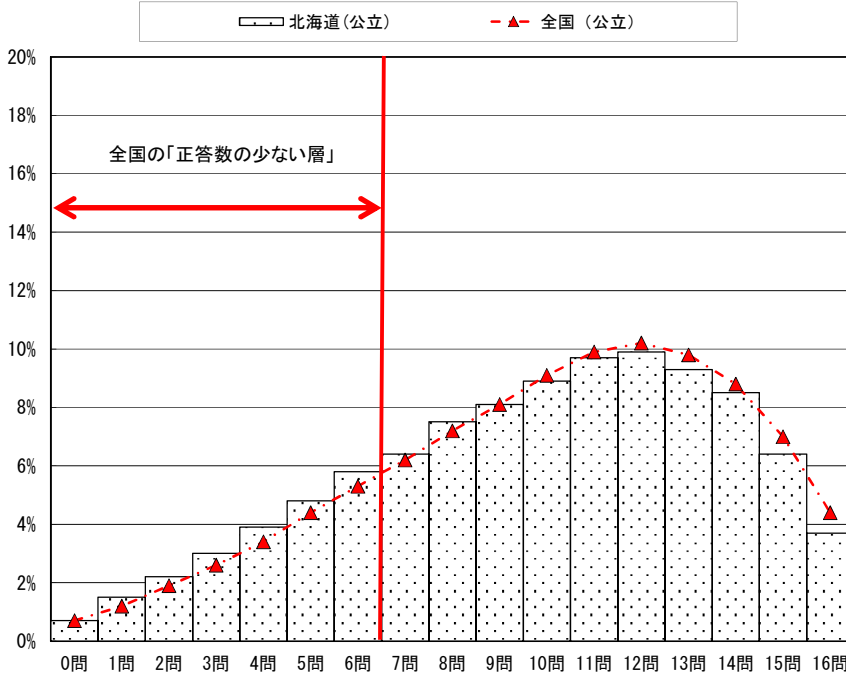
	R3	R4	R5
平均正答率が全国以上の問題数	3/14問	2/14問	1/14問
無解答率が全国以下の問題数	11/14問	10/14問	9/14問
無解答率が5%以上の問題数	5/14問	6/14問	5/14問

# ■ 小学校算数

## 【概要】

- 平均正答率は61 [61.0] %
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.5ポイント。

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	35,657	9.8 / 16	61 [61.0]	10.0	3.8
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	63 [62.5]	11.0	3.8



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

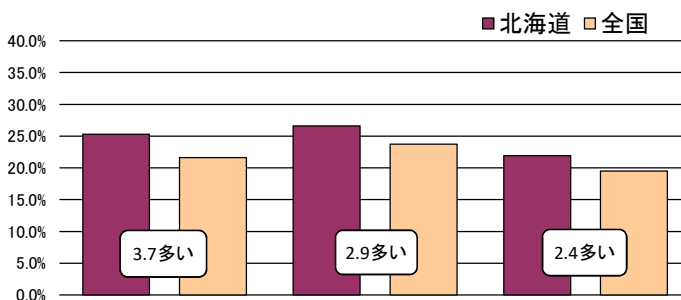
正答数 (児童の割合 (%))		
正答数 (正答率)	北海道	全国
16問 (100.0%)	3.7	4.4
15問 (93.8%)	6.4	7.0
14問 (87.5%)	8.5	8.8
13問 (81.3%)	9.3	9.8
12問 (75.0%)	9.9	10.2
11問 (68.8%)	9.7	9.9
10問 (62.5%)	8.9	9.1
9問 (56.3%)	8.1	8.1
8問 (50.0%)	7.5	7.2
7問 (43.8%)	6.4	6.2
6問 (37.5%)	5.8	5.3
5問 (31.3%)	4.8	4.4
4問 (25.0%)	3.9	3.4
3問 (18.8%)	3.0	2.6
2問 (12.5%)	2.2	1.9
1問 (6.3%)	1.5	1.2
0問 (0.0%)	0.7	0.7

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△13.0問	13.0問
第2四分位	◇10.0問	11.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。  
     は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

## 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



	R3		R4		R5	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	25.3%	21.6%	26.6%	23.7%	21.9%	19.5%
正答数	16問中 8問以下		16問中 7問以下		16問中 6問以下	
全国との差	3.7	多い	2.9	多い	2.4	多い

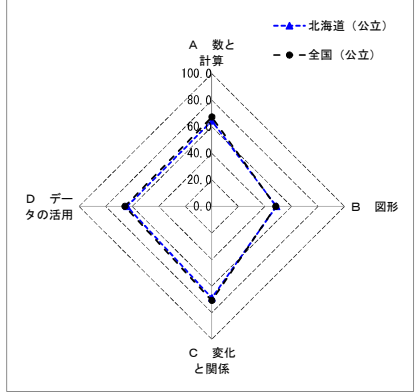


# 問題別調査結果 [小学校算数]

## 集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全国(公立)
	941	18,615		35,657	964,350
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体			16	61[61.0]	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	64.4	67.3	
	B 図形	4	48.7	48.2	
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	69.0	70.9	
	D データの活用	3	63.9	65.5	
評価の観点	知識・技能	9	65.6	67.2	
	思考・判断・表現	7	55.0	56.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	56.5	57.7	
	短答式	7	72.7	74.7	
	記述式	4	46.0	47.3	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

## 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用			北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
1(1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる				4(1) 7(7)	○		○	92.5	93.5	0.9	0.8
1(2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5(1) 7(7)	○	○	87.7	88.5	1.0	1.0	
1(3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5(1) 7(7) 5(2) 7(7)	○	○	50.8	55.5	4.2	3.4	
1(4)	全部の椅子の数を求めるために、50×40を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3(3) 7(7)				○	○	76.6	80.8	1.4	1.2	
2(1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) 7(7)			○	○	60.8	59.8	0.6	0.7	
2(2)	テープを折ったり切ったりしてきた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		2(1) 7(7) 4(1) 7(7)			○	○	86.9	87.2	3.0	2.9	
2(3)	切った開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		3(1) 7(7) 5(1) 7(7)			○	○	21.7	24.9	4.2	3.7	
2(4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		5(3) 7(7)			○	○	25.5	20.8	4.1	4.0	
3(1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	4(6) 7(7)				○	○	67.8	70.3	1.5	1.4	
3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを欄に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3(5) 7(7) 4(4) 7(7) 7(2) 7(7)				○	○	53.4	56.7	4.6	4.0	
3(3)	(151+49)×3と151×3+49×3を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4(6) 7(7) 4(7) 7(7)				○	○	69.1	72.4	2.8	2.5	
3(4)	66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができるかどうかをみる	3(4) 7(7) 4(3) 7(7)				○	○	45.6	47.6	4.4	3.9	
4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる			5(3) 7(7)		○	○	45.1	46.0	2.7	2.4	
4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	4(2) 7(7)			3(1) 7(7)	○	○	74.2	75.7	4.9	4.3	
4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる				3(1) 7(7) 4(1) 7(7)	○	○	54.3	56.2	14.9	13.8	
4(4)	二次元の表から、読み取ったことの特徴となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる				4(1) 7(7)	○	○	63.2	64.6	5.4	4.9	

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	R3	R4	R5
平均正答率が全国以上の問題数	1/16問	3/16問	2/16問
無解答率が全国以下の問題数	4/16問	0/16問	2/16問
無解答率が5%以上の問題数	3/16問	6/16問	2/16問

# ■ 中学校国語

**【概要】**  
 ○ 平均正答率は69〔69.4〕%  
 ○ 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.4ポイント。

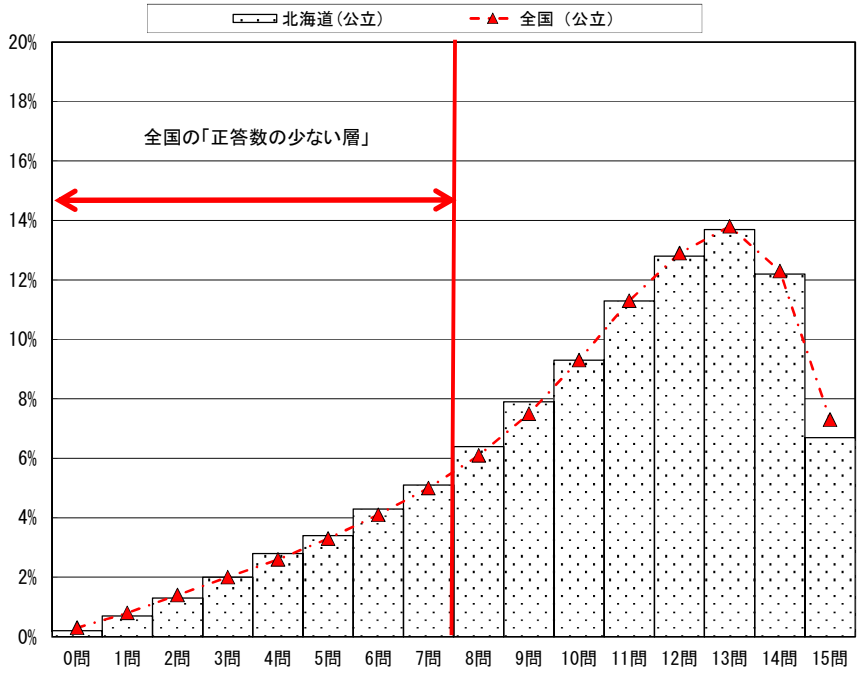
	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,256	10.4 / 15	69〔69.4〕	11.0	3.4
全国(公立)	892,738	10.5 / 15	70〔69.8〕	11.0	3.4

正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
15問(100.0%)	6.7	7.3
14問(93.3%)	12.2	12.3
13問(86.7%)	13.7	13.8
12問(80.0%)	12.8	12.9
11問(73.3%)	11.3	11.3
10問(66.7%)	9.3	9.3
9問(60.0%)	7.9	7.5
8問(53.3%)	6.4	6.1
7問(46.7%)	5.1	5.0
6問(40.0%)	4.3	4.1
5問(33.3%)	3.4	3.3
4問(26.7%)	2.8	2.6
3問(20.0%)	2.0	2.0
2問(13.3%)	1.3	1.4
1問(6.7%)	0.7	0.8
0問(0.0%)	0.2	0.3

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△13.0問	13.0問
第2四分位	◇11.0問	11.0問
第1四分位	▽8.0問	8.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。  
 ■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。



※ 全国の「正答数の少ない層」 … 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合

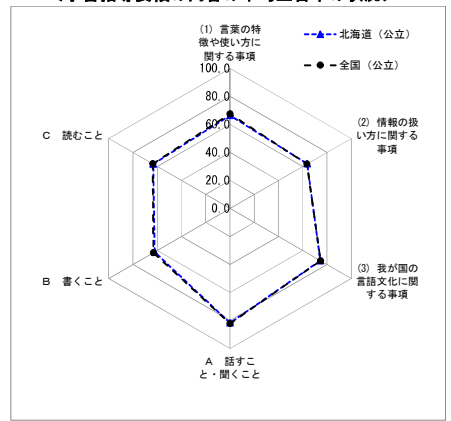
	R3		R4		R5	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	18.3%	18.6%	22.1%	21.3%	19.8%	19.5%
正答数	14問中 6問以下		14問中 7問以下		15問中 7問以下	
全国との差	0.3	少ない	0.8	多い	0.3	多い

問題別調査結果 [中学校国語]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象生徒数	北海道（公立）	全国（公立）
	569	9,336		34,256	892,738
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
	全体			北海道（公立）	全国（公立）
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	66.4	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	74.5	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	81.8	82.2
		B 書くこと	2	62.1	63.2
		C 読むこと	4	63.3	63.7
評価の観点	知識・技能	7	69.1	69.4	
	思考・判断・表現	9	69.2	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	7	73.1	73.1	
	短答式	4	65.3	65.6	
	記述式	4	66.9	68.0	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率（%）		無解答率（%）		
			知識及び技能					思考力、判断力、表現力等	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
			(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項							
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものと適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる			1ア			87.6	87.5	0.1	0.1	
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1ア				65.0	65.1	0.1	0.2	
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものと適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる			1エ			76.1	76.6	0.1	0.2	
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			1エ			81.7	82.5	11.9	10.8	
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1ウ					91.8	91.1	0.1	0.2	
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものと適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる			2エ			63.7	63.0	0.3	0.4	
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる			1ア			73.7	74.2	0.2	0.3	
2四	自分これからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる		2エ	2オ			65.6	67.5	4.3	3.9	
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる			1エ			54.1	54.3	0.5	0.6	
3二	漢字を書く（おし量って）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ					41.1	43.9	11.5	10.7	
3三	『判じ絵』とは何かと見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2ア				62.3	61.8	2.1	2.1	
3四	『判じ絵』の解説の面白さと見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる			1ウ			70.1	72.1	11.9	10.2	
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる		1ア				82.5	82.5	3.5	3.6	
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる		2イ				75.3	74.1	5.0	4.8	
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる			1エ			50.1	50.0	22.7	20.7	

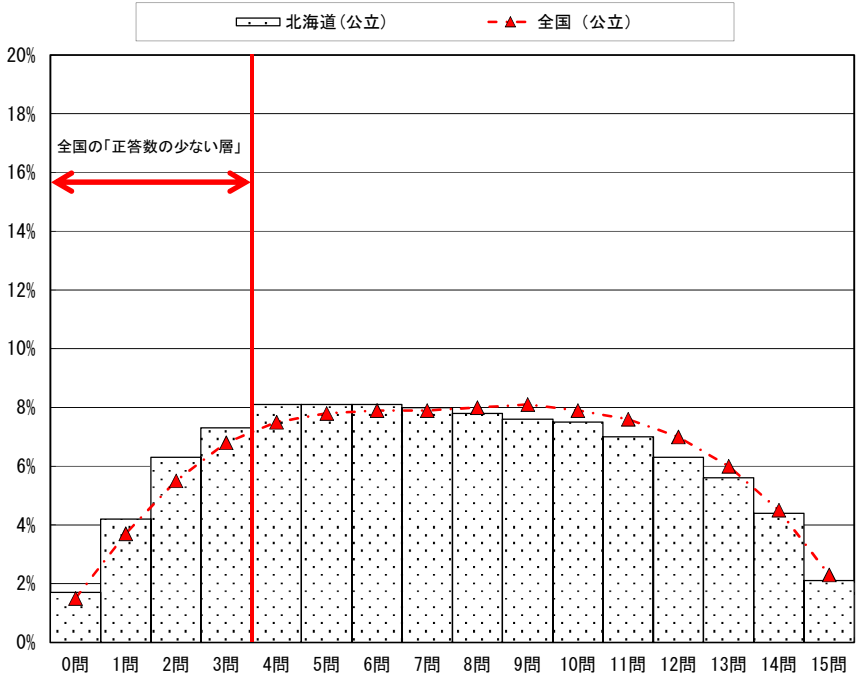
※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	R3	R4	R5
平均正答率が全国以上の問題数	6/14問	4/14問	7/15問
無解答率が全国以下の問題数	11/14問	5/14問	9/15問
無解答率が5%以上の問題数	4/14問	4/14問	5/15問

# ■ 中学校数学

**【概要】**  
 ○ 平均正答率は49〔49.3〕%  
 ○ 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.7ポイント。

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,259	7.4 / 15	49〔49.3〕	7.0	3.9
全国(公立)	893,114	7.6 / 15	51〔51.0〕	8.0	3.9



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

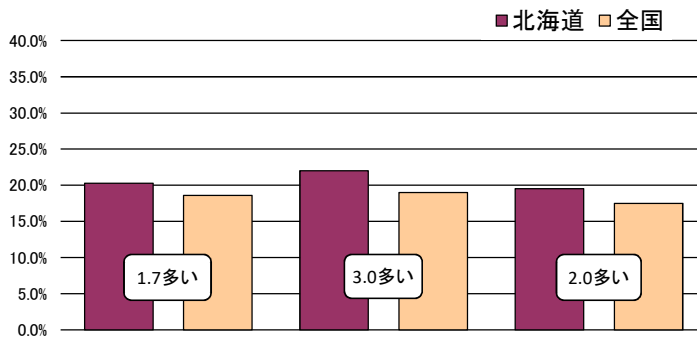
正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
15問(100.0%)	2.1	2.3
14問(93.3%)	4.4	4.5
13問(86.7%)	5.6	6.0
12問(80.0%)	6.3	7.0
11問(73.3%)	7.0	7.6
10問(66.7%)	7.5	7.9
9問(60.0%)	7.6	8.1
8問(53.3%)	7.8	8.0
7問(46.7%)	8.0	7.9
6問(40.0%)	8.1	7.9
5問(33.3%)	8.1	7.8
4問(26.7%)	8.1	7.5
3問(20.0%)	7.3	6.8
2問(13.3%)	6.3	5.5
1問(6.7%)	4.2	3.7
0問(0.0%)	1.7	1.5

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△11.0問	11.0問
第2四分位	◇7.0問	8.0問
第1四分位	▽4.0問	4.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。  
 ■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

## 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



	R3		R4		R5	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	20.3%	18.6%	22.0%	19.0%	19.5%	17.5%
正答数	16問中 5問以下		14問中 3問以下		15問中 3問以下	
全国との差	1.7	多い	3.0	多い	2.0	多い

# 問題別調査結果 [中学校数学]

## 集計結果

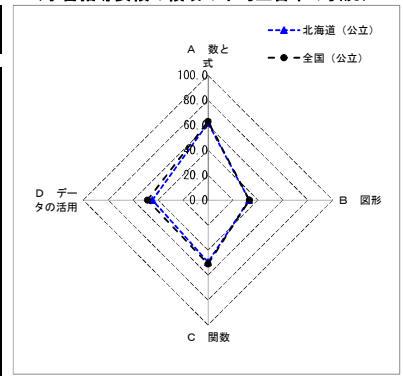
対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	569	9,337		34,259	893,114

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			北海道(公立)	全国(公立)
全体				
			49[49.3]	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	61.7	63.0
	B 図形	3	32.9	33.2
	C 関数	4	49.7	51.2
	D データの活用	3	44.5	48.5
評価の観点	知識・技能	10	54.4	55.7
	思考・判断・表現	5	39.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	4	45.3	45.3
	短答式	6	60.4	62.6
	記述式	5	39.1	41.6

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

## <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



## 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
1	-5, 0, 3, 4, 7, 9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	1(1) 7(7)					○						49.9	46.1	0.1	0.1
2	12(x/4 + y/6)を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	2(1) 7(7)					○						79.7	80.5	4.4	4.0
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる	1(2) 7(7)					○						30.6	30.4	0.6	0.8
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる			1(1) 7(4)			○						41.7	42.8	0.5	0.5
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				1(1) 7(7)		○						39.4	46.1	13.0	11.0
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	1(1) 7(7)					○						88.1	88.9	2.8	2.4
6(2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) 7(4)					○						53.3	58.8	13.3	10.6
6(3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	2(1) 7(4)					○						37.5	40.9	28.1	24.7
7(1)	1961年~1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				2(1) 7(7)		○						62.5	65.7	6.8	5.6
7(2)	「2006年~2020年の休業日は、1991年~2005年の休業日より遅くはなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(1) 7(7)		○						31.5	33.6	25.0	22.8
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる				2(1) 7(7)		○						55.8	57.5	9.9	8.6
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) 7(4)		○						59.0	61.7	1.1	1.1
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				2(1) 7(4)		○						42.2	42.8	15.2	13.2
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる				2(1) 7(7)		○						31.2	32.1	26.7	24.7
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる				2(2) 7(7)		○						36.9	37.0	15.1	14.2

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

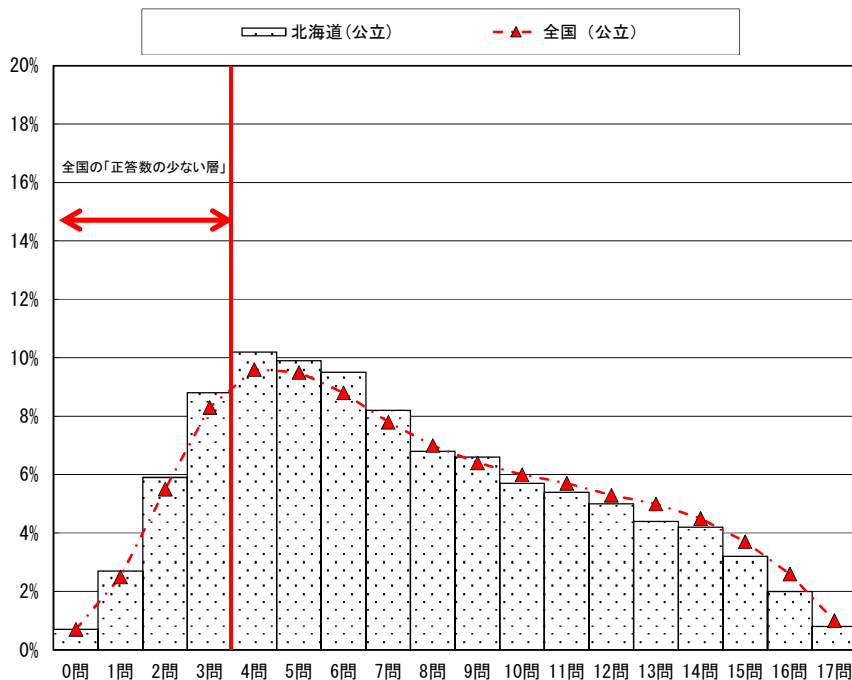
	R3	R4	R5
平均正答率が全国以上の問題数	3/16問	2/14問	2/15問
無解答率が全国以下の問題数	3/16問	3/14問	4/15問
無解答率が5%以上の問題数	9/16問	9/14問	9/15問

## ■ 中学校英語

### 【概要】

- 平均正答率は44 [43.9] %
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.7ポイント。

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,242	7.5 / 17	44 [43.9]	7.0	4.1
全国(公立)	893,528	7.7 / 17	46 [45.6]	7.0	4.2



※ 全国の「正答数の少ない層」 … 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
17問(100.0%)	0.8	1.0
16問(94.1%)	2.0	2.6
15問(88.2%)	3.2	3.7
14問(82.4%)	4.2	4.5
13問(76.5%)	4.4	5.0
12問(70.6%)	5.0	5.3
11問(64.7%)	5.4	5.7
10問(58.8%)	5.7	6.0
9問(52.9%)	6.6	6.4
8問(47.1%)	6.8	7.0
7問(41.2%)	8.2	7.8
6問(35.3%)	9.5	8.8
5問(29.4%)	9.9	9.5
4問(23.5%)	10.2	9.6
3問(17.6%)	8.8	8.3
2問(11.8%)	5.9	5.5
1問(5.9%)	2.7	2.5
0問(0.0%)	0.7	0.7

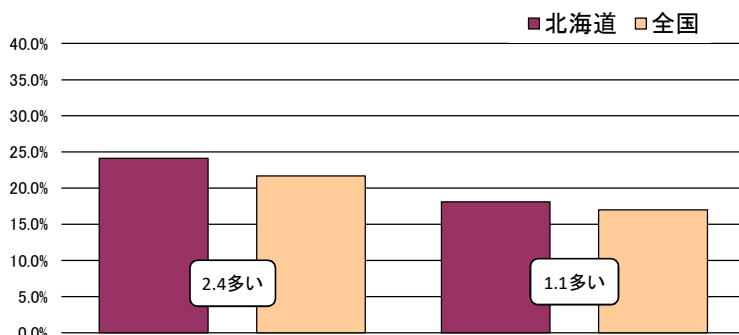
(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△11.0問	11.0問
第2四分位	◇7.0問	7.0問
第1四分位	▽4.0問	4.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



	H31(R1)		R5	
	全道	全国	全道	全国
割合	24.1%	21.7%	18.1%	17.0%
正答数	21問中 8問以下		17問中 3問以下	
全国との差	2.4	多い	1.1	多い

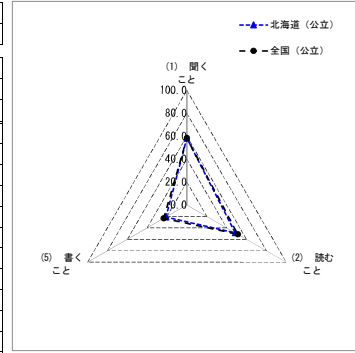
# 問題別調査結果 [中学校英語]

## 集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	569	9,335		34,242	893,528
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体					
		17	44[43.9]	45.6	
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	58.1	58.4	
	(2) 読むこと	6	48.7	51.2	
	(3) 話すこと[やり取り]	0			
	(4) 話すこと[発表]	0			
	(5) 書くこと	5	21.1	23.4	
評価の観点	知識・技能	9	49.5	51.5	
	思考・判断・表現	8	37.6	38.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	53.4	54.8	
	短答式	3	27.4	30.1	
	記述式	2	11.8	13.5	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

## <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



## 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと[やり取り]	(4) 話すこと[発表]	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
1(1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			77.6	79.0	0.1	0.1
1(2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			65.9	64.4	0.2	0.2
1(3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			47.1	49.8	0.2	0.2
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、必要な情報を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			60.6	61.1	0.2	0.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			41.5	41.2	0.2	0.2
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○			56.2	54.8	0.4	0.4
5(1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○			○			52.9	56.0	0.2	0.3
5(2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	○					○			○			61.5	64.5	0.2	0.3
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			32.6	35.9	0.2	0.3
7(1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○			○			58.2	59.8	0.3	0.3
7(2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	イ					○			○			33.0	34.7	0.7	0.7
8(1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○			53.7	56.1	0.8	0.8
8(2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	ウ					○			○			17.2	19.5	33.1	29.3
9(1)①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる				ア		○			○			37.1	40.4	7.7	6.6
9(1)②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる				ア		○			○			15.6	20.9	13.0	10.9
9(2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる				ア		○			○			29.3	29.0	26.8	24.5
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる				イ		○			○			6.3	7.4	25.9	21.4

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H31(R1)	R5
平均正答率が全国以上の問題数	4/21問	4/17問
無解答率が全国以下の問題数	13/21問	12/17問
無解答率が5%以上の問題数	7/21問	5/17問

## 4. 質問紙調査（P 3 の項目を掲載）

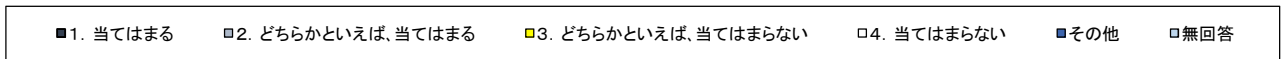
### ■授業改善

#### 【児童生徒質問紙】

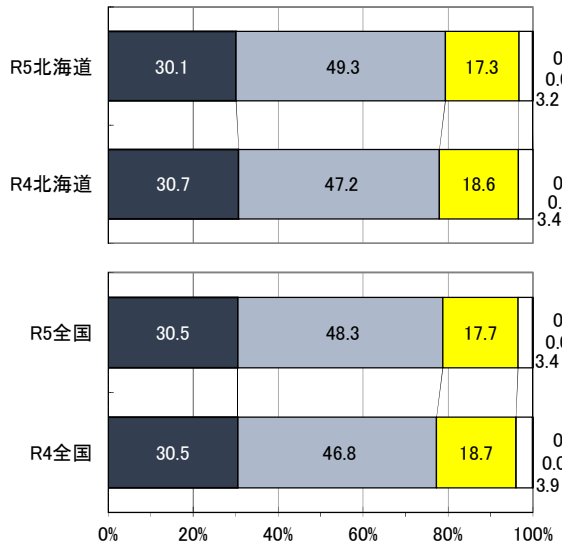
①「5年生[中: 1、2年生]までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

（児童生徒 質問番号 小33、中37）

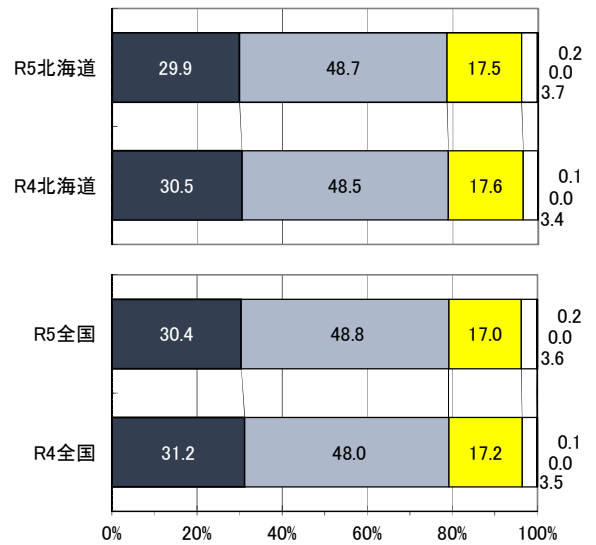
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校及び中学校で0.6ポイント低い。全国と比べて小学校で0.4ポイント低く、中学校で0.5ポイント低い。



〈小学校〉



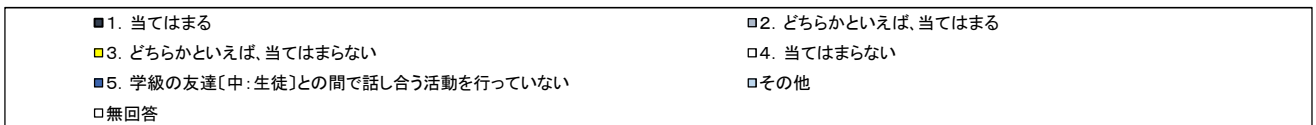
〈中学校〉



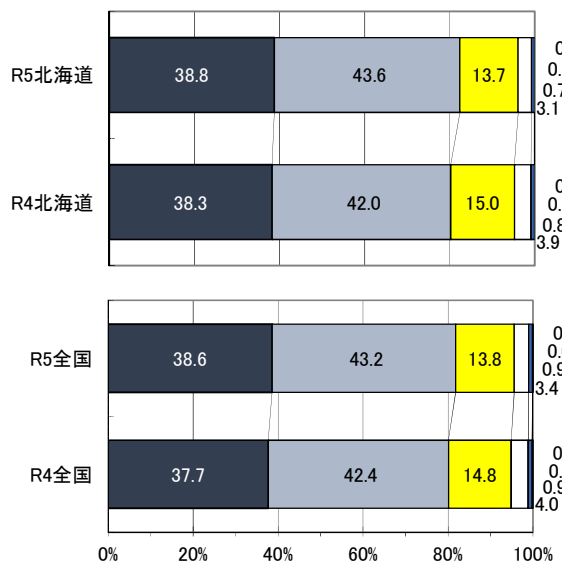
②「学級の友達[中: 生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」

（児童生徒 質問番号 小36、中40）

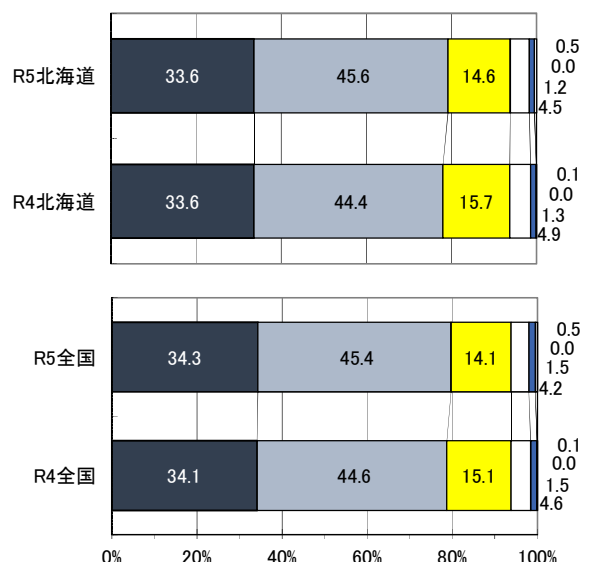
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校で0.5ポイント高く、中学校は同様。全国と比べて小学校で0.2ポイント高く、中学校で0.7ポイント低い。



〈小学校〉



〈中学校〉





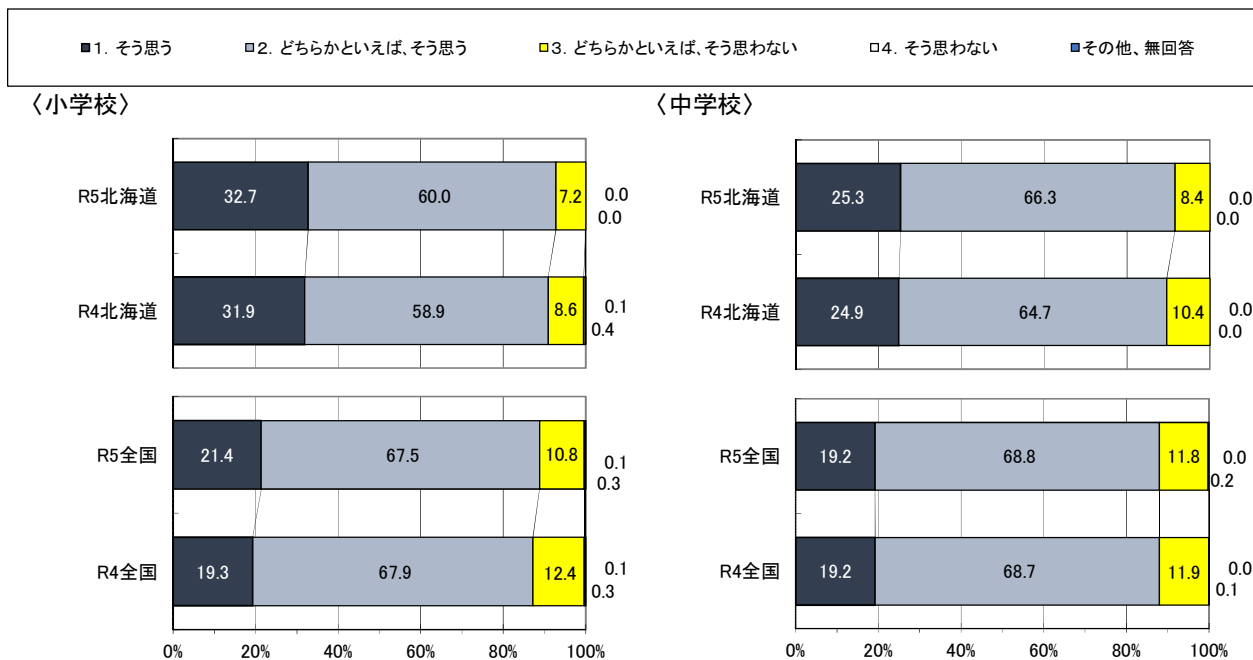
## ■授業改善

### 【学校質問紙】

③ 「調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか」

(学校 質問番号 小26、中26)

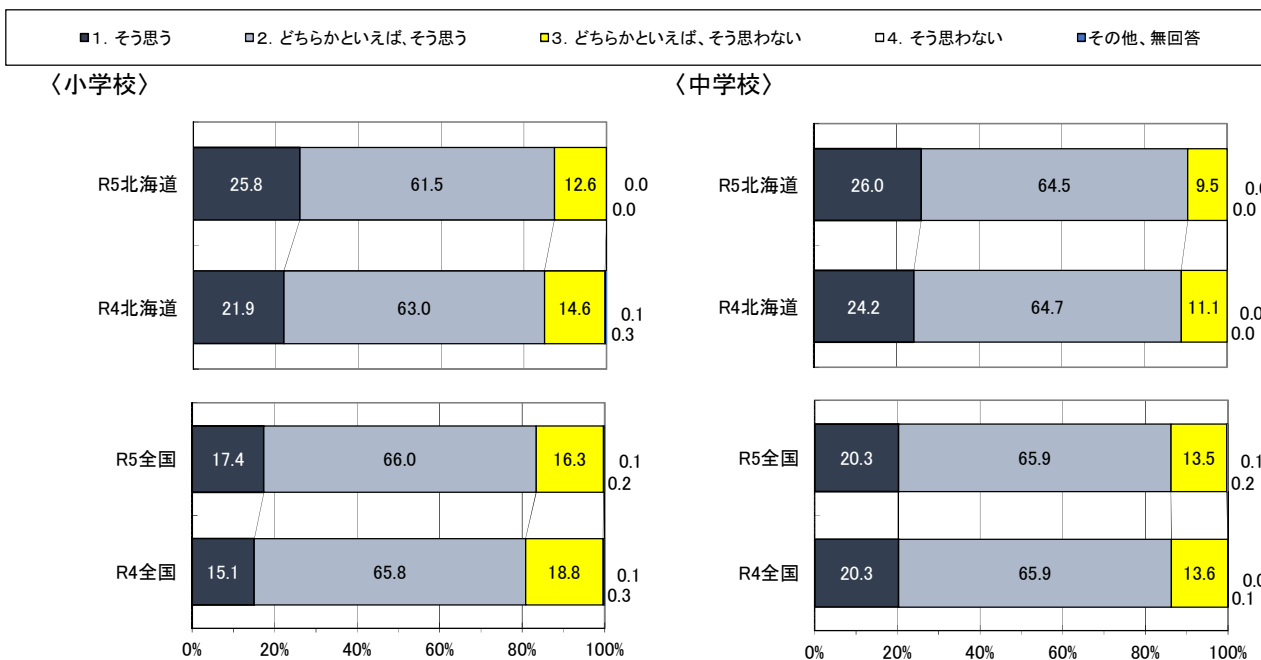
「1. そう思う」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で0.8ポイント高く、中学校で0.4ポイント高い。全国と比べて小学校で11.3ポイント高く、中学校で6.1ポイント高い。



④ 「調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」

(学校 質問番号 小29、中29)

「1. そう思う」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で3.9ポイント高く、中学校で1.8ポイント高い。全国と比べて小学校で8.4ポイント高く、中学校で5.7ポイント高い。



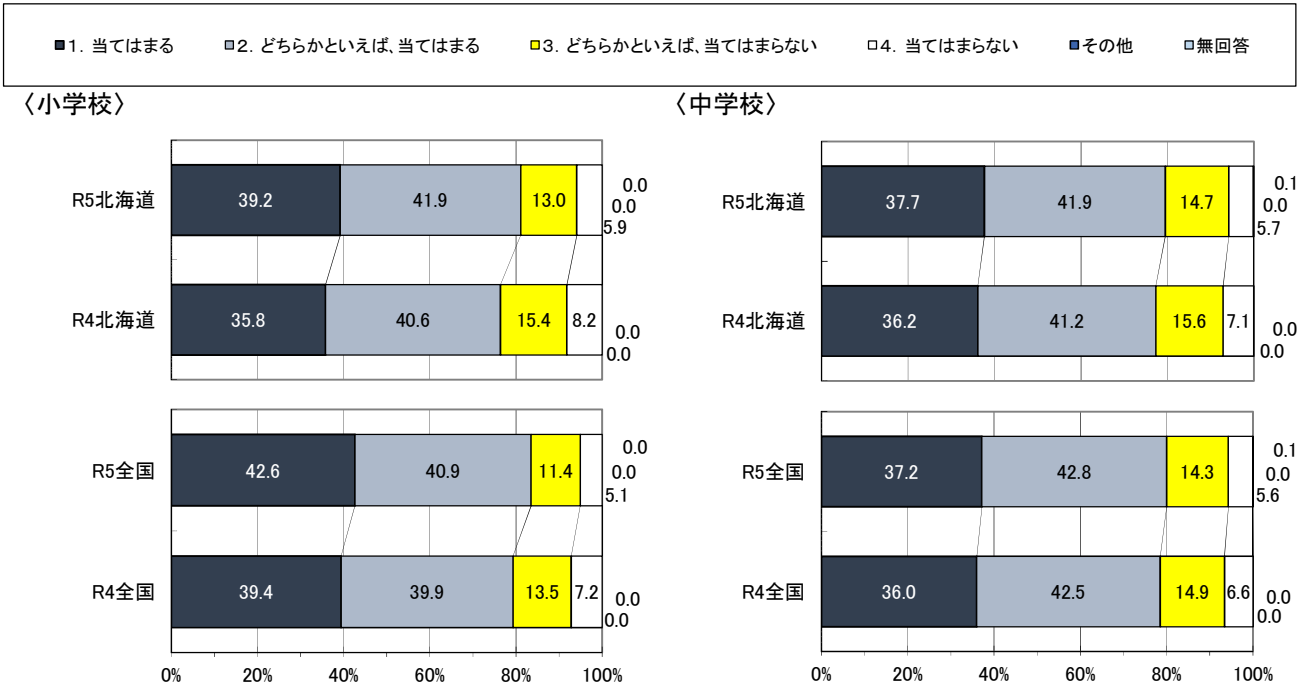
## ■自己有用感等

### 【児童生徒質問紙】

#### ⑤ 「自分には、よいところがあると思いますか」

(児童生徒 質問番号 小4、中4)

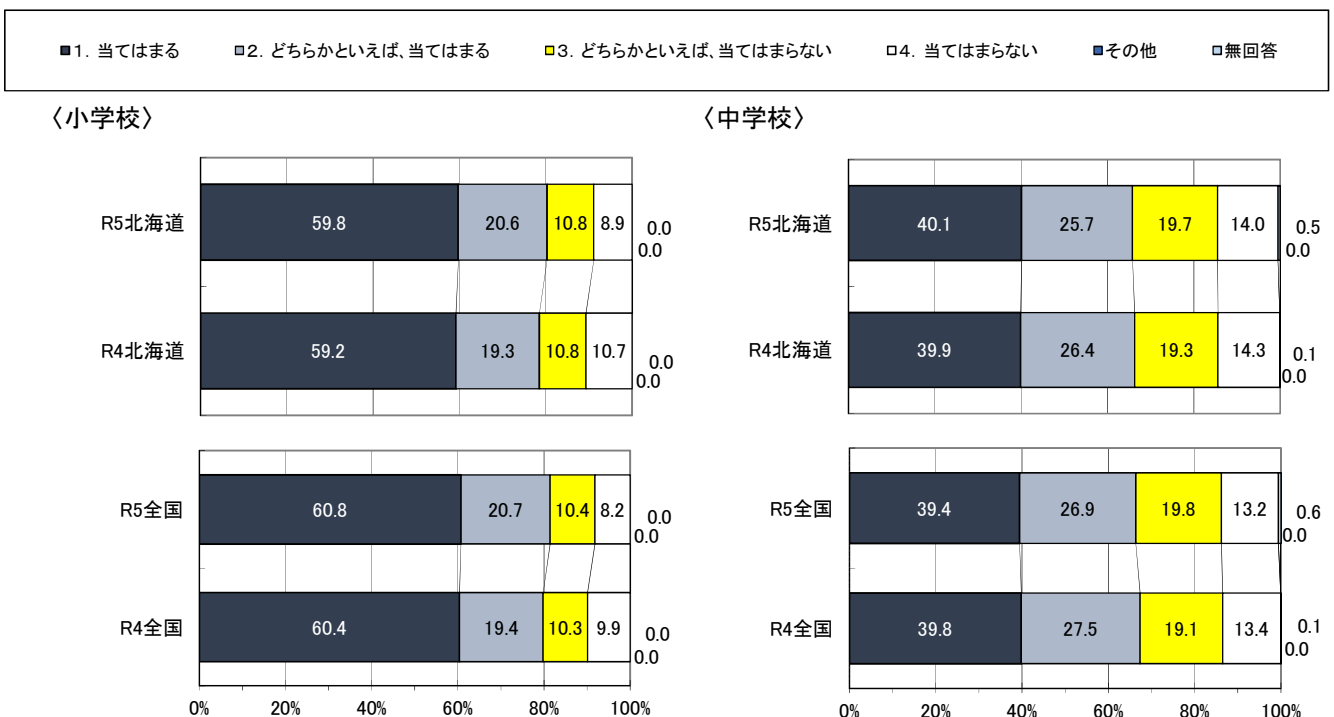
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校で3.4ポイント高く、中学校で1.5ポイント高い。全国と比べて小学校で3.4ポイント低く、中学校で0.5ポイント高い。



#### ⑥ 「将来の夢や目標を持っていますか」

(児童生徒 質問番号 小7、中7)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校で0.6ポイント高く、中学校で0.2ポイント高い。全国と比べて小学校で1.0ポイント低く、中学校で0.7ポイント高い。



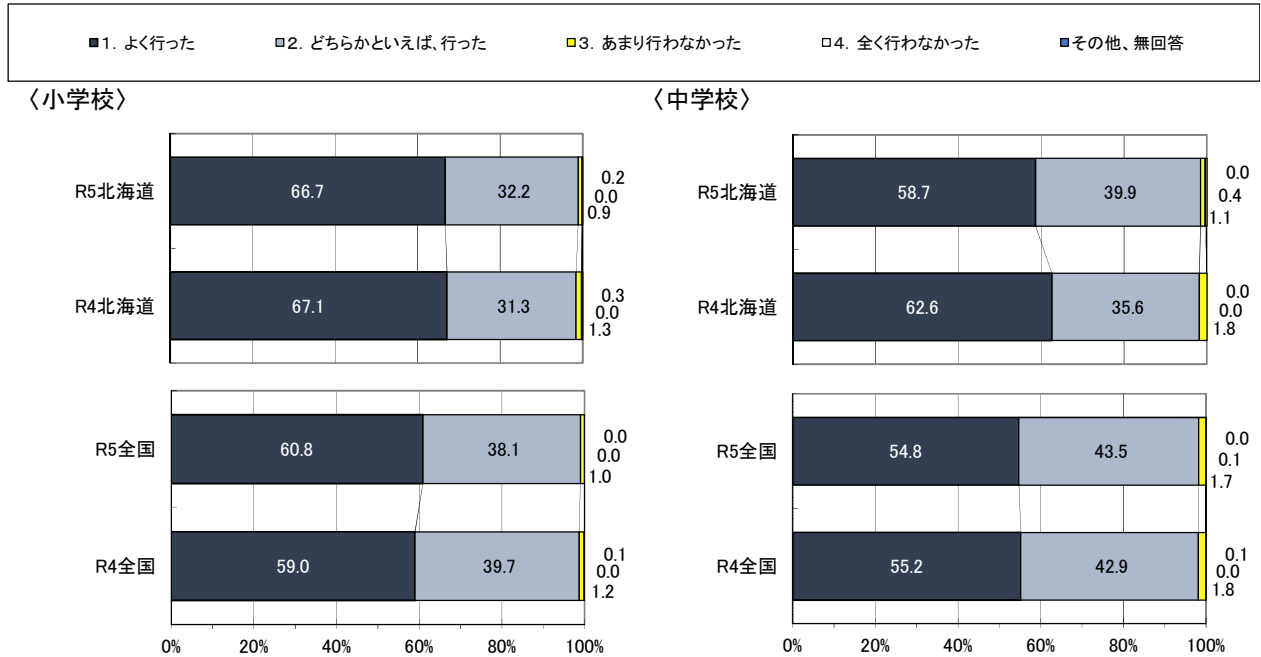
## ■ 自己有用感等

### 【学校質問紙】

⑦「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか」

(学校 質問番号 小13、中13)

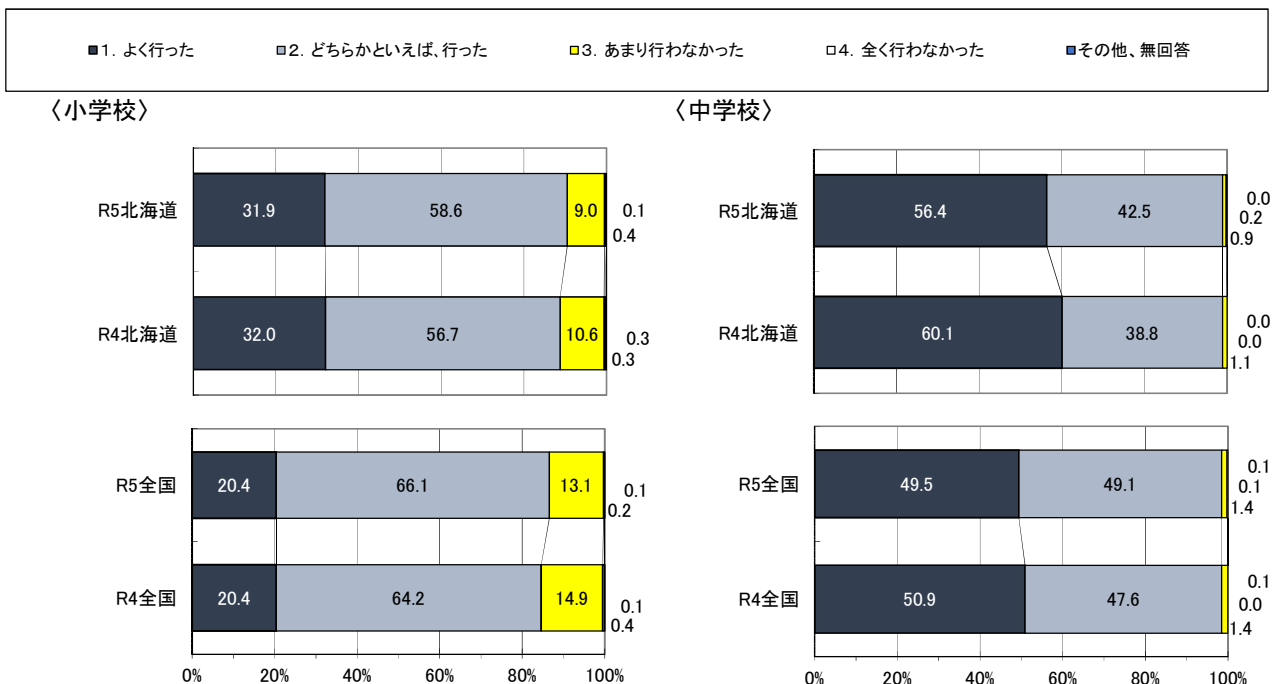
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で0.4ポイント低く、中学校で3.9ポイント低い。全国と比べて小学校で5.9ポイント高く、中学校で3.9ポイント高い。



⑧「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」

(学校 質問番号 小11、中11)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で0.1ポイント低く、中学校で3.7ポイント低い。全国と比べて小学校で11.5ポイント高く、中学校で6.9ポイント高い。



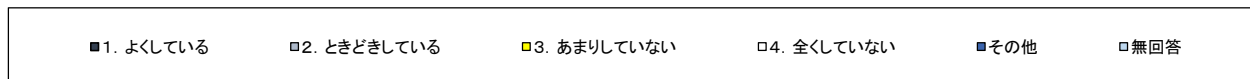
## ■家庭学習等

### 【児童生徒質問紙】

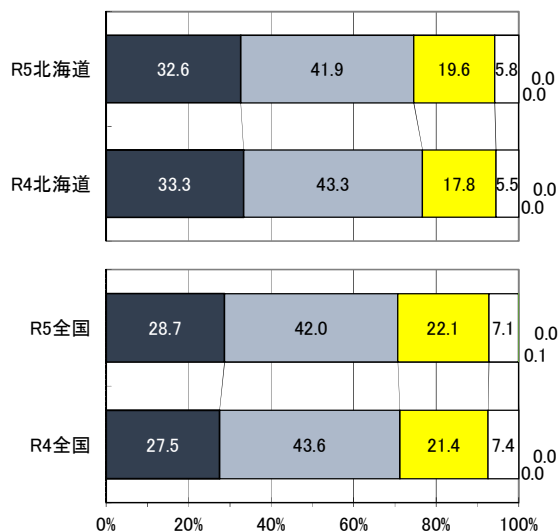
#### ⑨「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます)」

(児童生徒 質問番号 小16、中16)

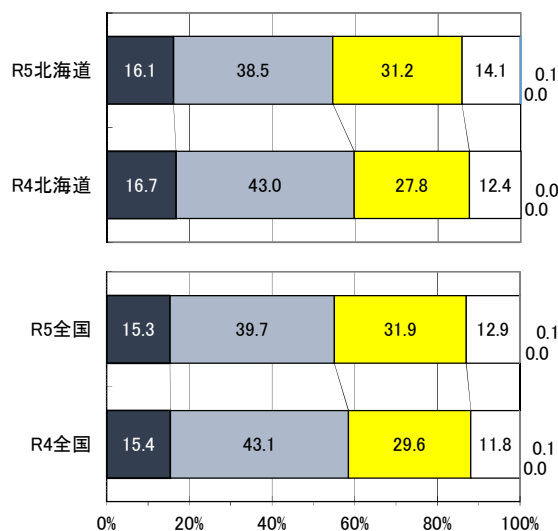
「1. よくしている」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校で0.7ポイント低く、中学校で0.6ポイント低い。全国と比べて小学校で3.9ポイント高く、中学校で0.8ポイント高い。



〈小学校〉



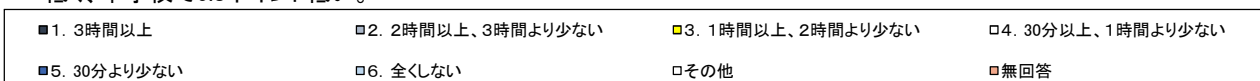
〈中学校〉



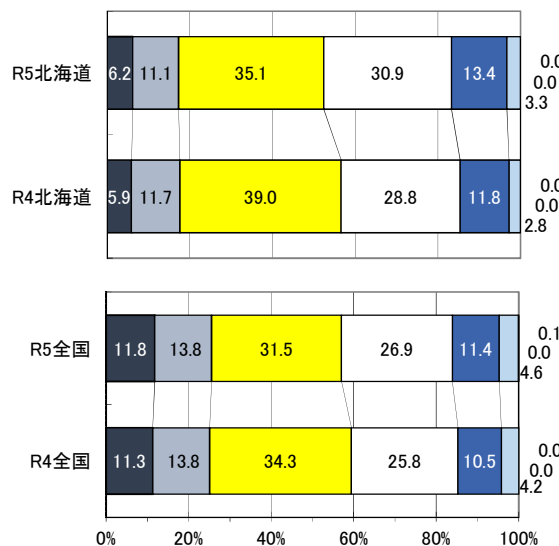
#### ⑩「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます)」

(児童生徒 質問番号 小17、中17)

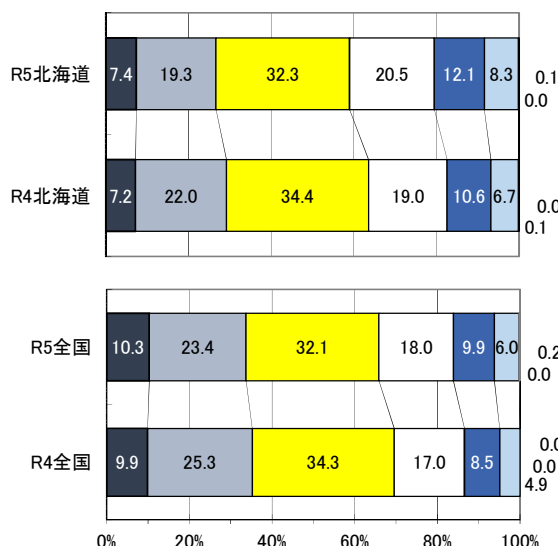
「1. 3時間以上」、「2. 2時間以上、3時間より少ない」又は「3. 1時間以上、2時間より少ない」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校で4.2ポイント低く、中学校で4.6ポイント低い。全国と比べて小学校で4.7ポイント低く、中学校で6.8ポイント低い。



〈小学校〉



〈中学校〉



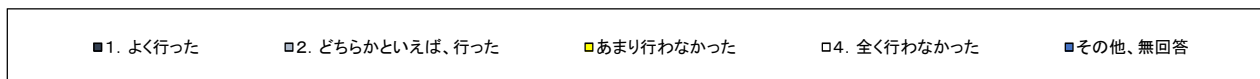
## ■家庭学習等

### 【学校質問紙】

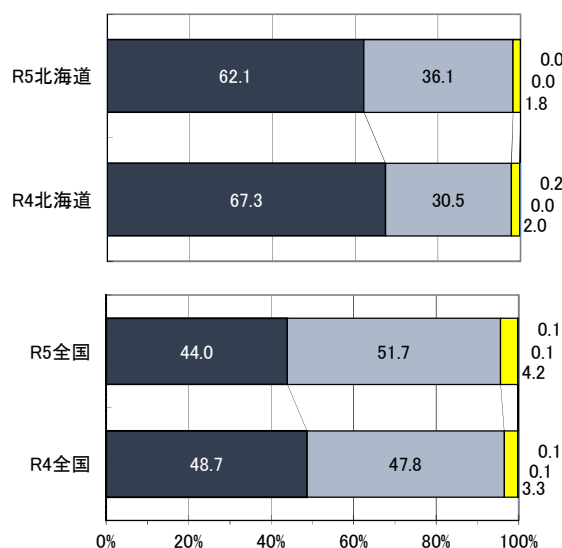
⑪ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える取組を行いましたか」

(学校 質問番号 小76、中84)

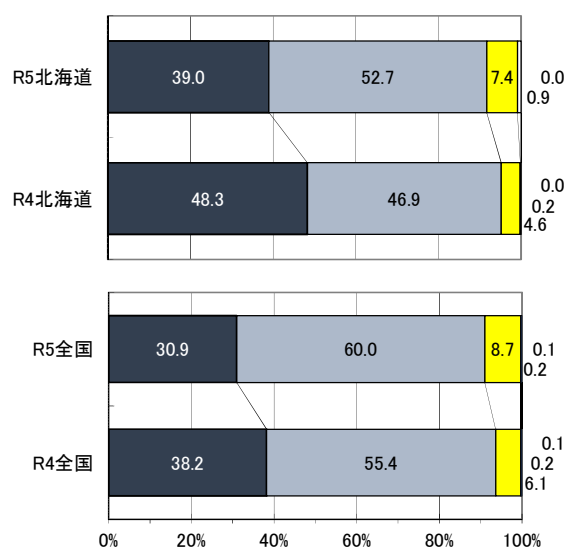
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で5.2ポイント低く、中学校で9.3ポイント低い。全国と比べて小学校で18.1ポイント高く、中学校で8.1ポイント高い。



〈小学校〉



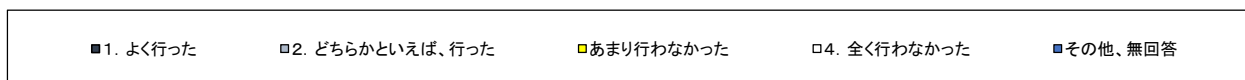
〈中学校〉



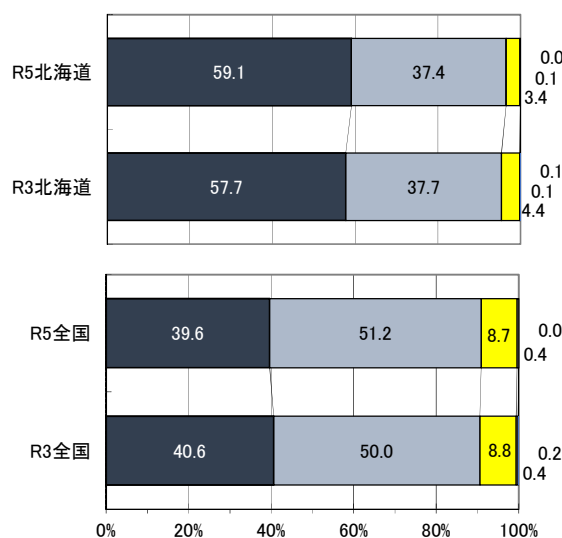
⑫ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内で教職員で共通理解を図る取組を行いましたか」

(学校 質問番号 小75、中83)

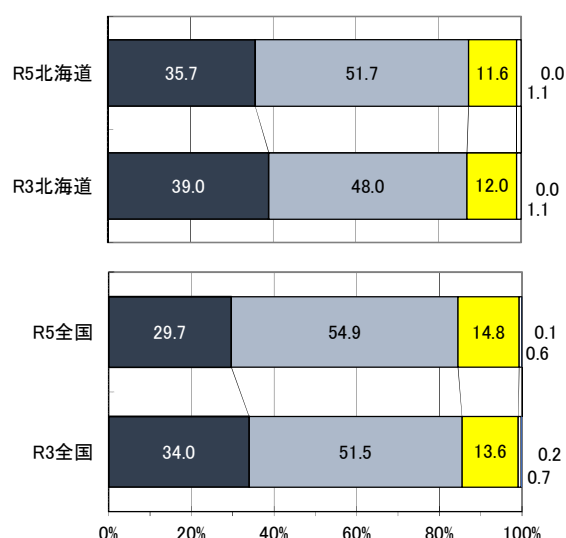
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和3年度と比べて、小学校で1.4ポイント高く、中学校で3.3ポイント低い。全国と比べて小学校で19.5ポイント高く、中学校で6.0ポイント高い。



〈小学校〉



〈中学校〉



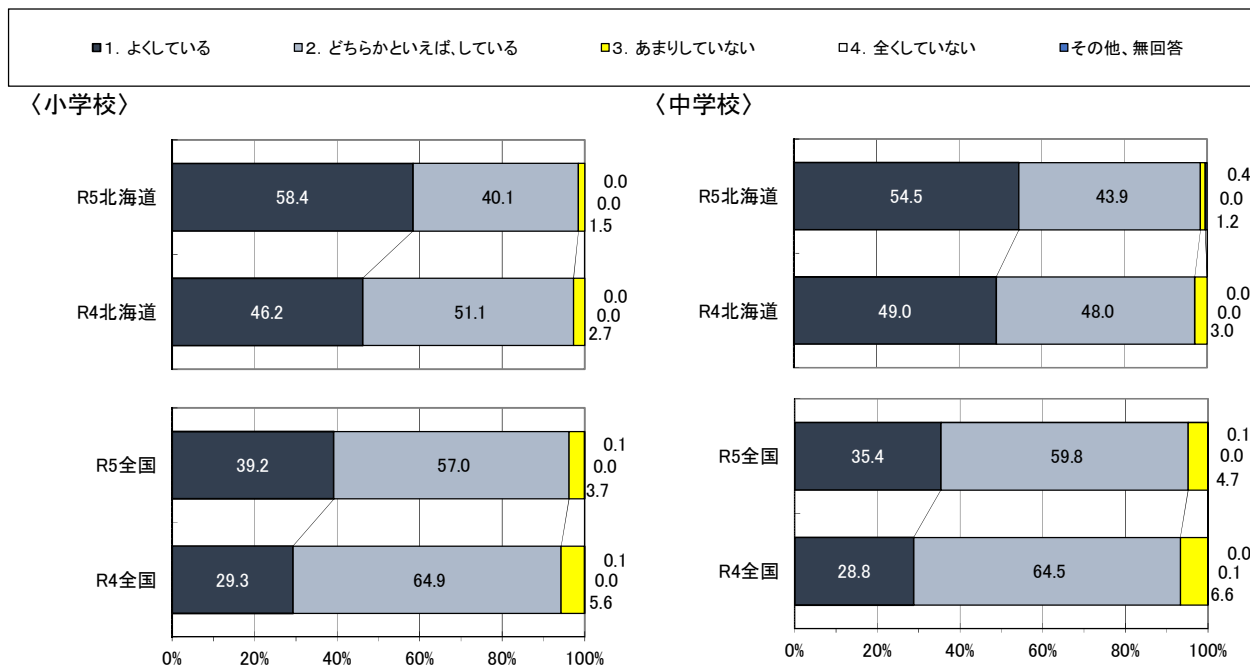
## ■ 検証改善サイクル

### 【学校質問紙】

⑬ 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」

(学校 質問番号 小19、中19)

「1. よくしている」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で12.2ポイント高く、中学校で5.5ポイント高い。全国と比べて小学校で19.2ポイント高く、中学校で19.1ポイント高い。

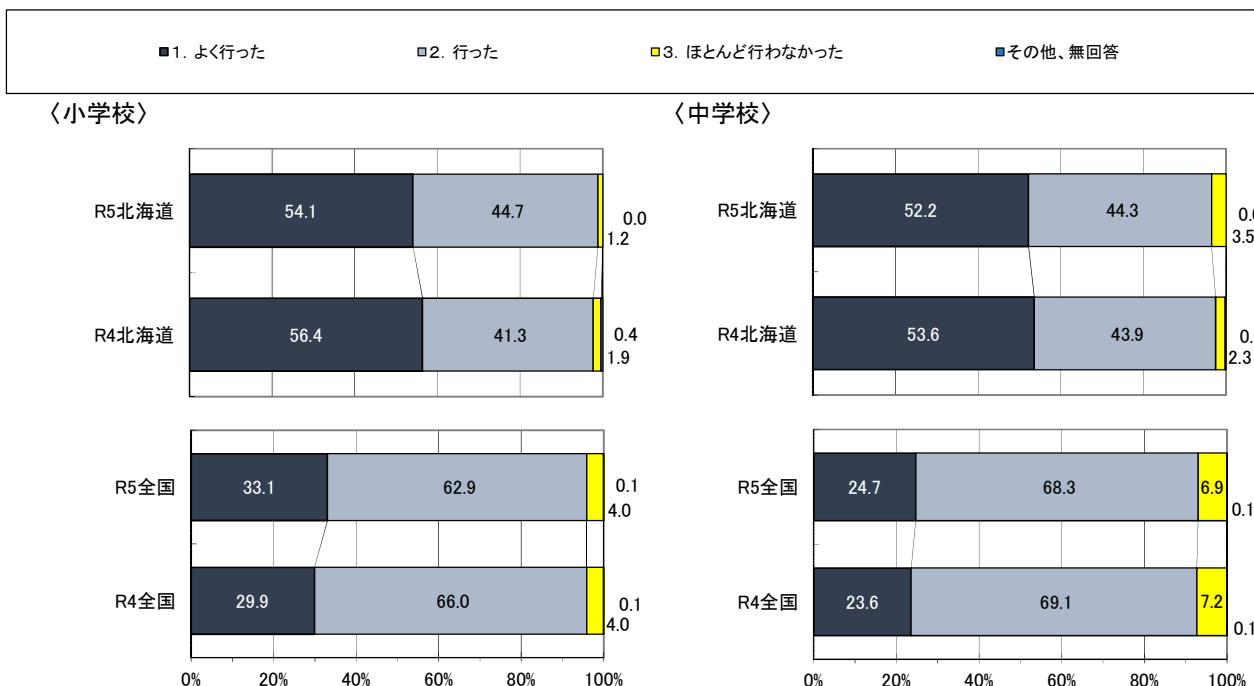


### 【学校質問紙】

⑭ 「前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

(学校 質問番号 小78、中86)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で2.3ポイント低く、中学校で1.4ポイント低い。全国と比べて小学校で21ポイント高く、中学校で27.5ポイント高い。



## ■英語の授業

### 【生徒質問紙】

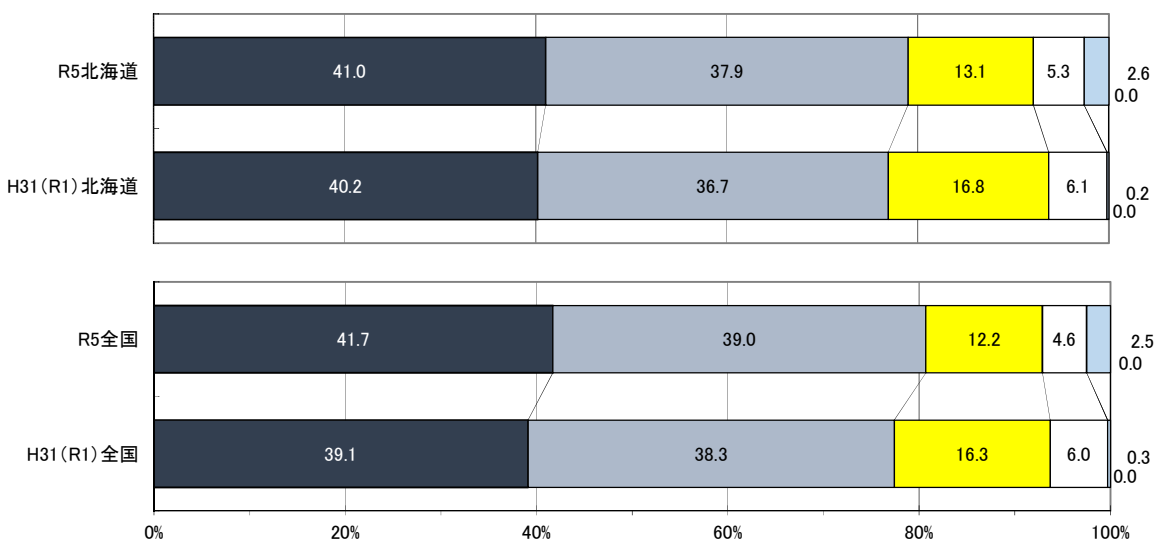
⑮ 「1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」

(生徒 質問番号 中71)

「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて0.8ポイント高い。全国と比べて0.7ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

〈中学校〉



### 【学校質問紙】

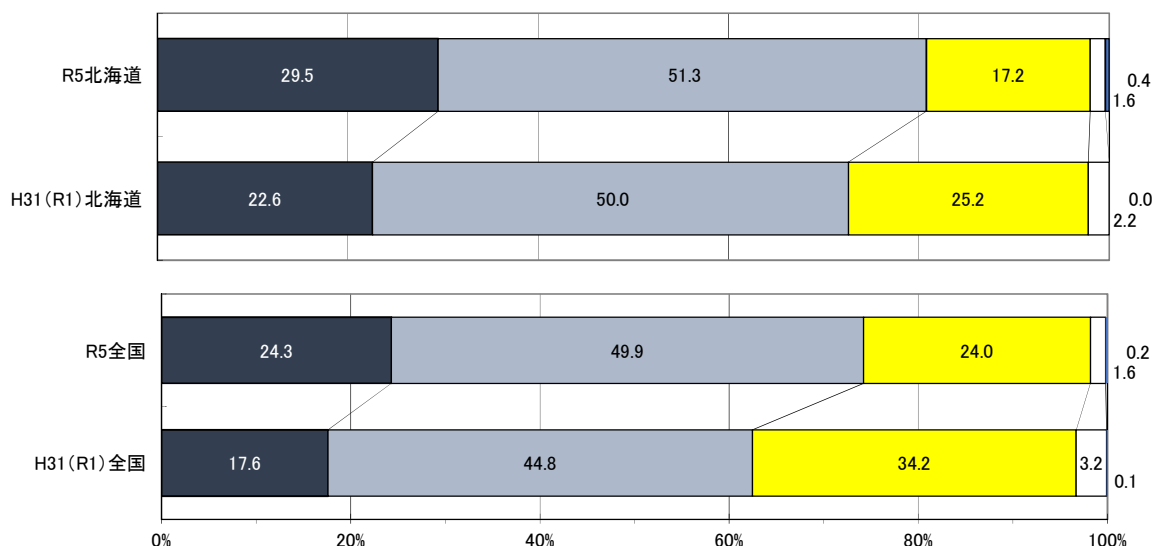
⑯ 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか」

(学校 質問番号 中54)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて6.9ポイント高い。全国と比べて5.2ポイント高い。

■1. よく行った □2. どちらかといえば、よく行った ■3. あまり行わなかった □4. 全く行わなかった ■その他、無回答

〈中学校〉



## 5. 1人1台端末の活用について

児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどICT機器の授業場面及び家庭学習での活用状況について、概要及びそのグラフを掲載しています。

主体的・対話的で深い学びにおける活用状況																
学 校 質 問 紙	<p>① 児童生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用している学校の割合 (小56、中64)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>(R4)</th> <th>R5 全国比</th> <th>(R4 全国比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>41.0 %</td> <td>( 30.8 % )</td> <td>+11.9</td> <td>( +9.6 )</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>38.0 %</td> <td>( 29.6 % )</td> <td>+9.1</td> <td>( +7.0 )</td> </tr> </tbody> </table>		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)	小	41.0 %	( 30.8 % )	+11.9	( +9.6 )	中	38.0 %	( 29.6 % )	+9.1	( +7.0 )
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)											
	小	41.0 %	( 30.8 % )	+11.9	( +9.6 )											
	中	38.0 %	( 29.6 % )	+9.1	( +7.0 )											
<p>② 児童生徒同士がやりとりする場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用させている学校の割合 (小59、中67)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>(R4)</th> <th>R5 全国比</th> <th>(R4 全国比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>25.8 %</td> <td>( 15.7 % )</td> <td>+9.4</td> <td>( +4.4 )</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>19.3 %</td> <td>( 14.6 % )</td> <td>+6.9</td> <td>( +4.4 )</td> </tr> </tbody> </table>		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)	小	25.8 %	( 15.7 % )	+9.4	( +4.4 )	中	19.3 %	( 14.6 % )	+6.9	( +4.4 )	
	R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)												
小	25.8 %	( 15.7 % )	+9.4	( +4.4 )												
中	19.3 %	( 14.6 % )	+6.9	( +4.4 )												
<p>③ 児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させている学校の割合 (小57、中65)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>(R4)</th> <th>R5 全国比</th> <th>(R4 全国比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>24.5 %</td> <td>( 18.0 % )</td> <td>+7.7</td> <td>( +4.3 )</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>20.2 %</td> <td>( 16.8 % )</td> <td>+4.3</td> <td>( +2.2 )</td> </tr> </tbody> </table>		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)	小	24.5 %	( 18.0 % )	+7.7	( +4.3 )	中	20.2 %	( 16.8 % )	+4.3	( +2.2 )	
	R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)												
小	24.5 %	( 18.0 % )	+7.7	( +4.3 )												
中	20.2 %	( 16.8 % )	+4.3	( +2.2 )												

家庭学習を含めた活用状況																
児 童 生 徒 質 問 紙	<p>④ 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日活用した児童生徒の割合 (小29、中33)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>(R4)</th> <th>R5 全国比</th> <th>(R4 全国比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>35.4 %</td> <td>( 32.5 % )</td> <td>+7.2</td> <td>( +5.8 )</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>29.7 %</td> <td>( 23.3 % )</td> <td>+1.6</td> <td>( +1.7 )</td> </tr> </tbody> </table>		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)	小	35.4 %	( 32.5 % )	+7.2	( +5.8 )	中	29.7 %	( 23.3 % )	+1.6	( +1.7 )
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)											
	小	35.4 %	( 32.5 % )	+7.2	( +5.8 )											
中	29.7 %	( 23.3 % )	+1.6	( +1.7 )												
<p>⑤ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている児童生徒の割合 (小31、中35)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>(R4)</th> <th>R5 全国比</th> <th>(R4 全国比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>18.8 %</td> <td>( 23.5 % )</td> <td>+0.9</td> <td>( +1.9 )</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>14.8 %</td> <td>( 18.7 % )</td> <td>+1.4</td> <td>( +1.0 )</td> </tr> </tbody> </table>		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)	小	18.8 %	( 23.5 % )	+0.9	( +1.9 )	中	14.8 %	( 18.7 % )	+1.4	( +1.0 )	
	R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)												
小	18.8 %	( 23.5 % )	+0.9	( +1.9 )												
中	14.8 %	( 18.7 % )	+1.4	( +1.0 )												
<p>⑥ 家庭学習の課題(宿題)として、週3回以上、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている児童生徒の割合 (小59、中65)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R5全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>13.1 %</td> <td>-0.9</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>8.8 %</td> <td>-0.3</td> </tr> </tbody> </table>		R5	R5全国比	小	13.1 %	-0.9	中	8.8 %	-0.3							
	R5	R5全国比														
小	13.1 %	-0.9														
中	8.8 %	-0.3														
学 校 質 問 紙	<p>⑦ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用した学校の割合 (小55、中63)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>(R4)</th> <th>R5 全国比</th> <th>(R4 全国比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>76.6 %</td> <td>( 69.9 % )</td> <td>+11.4</td> <td>( +11.7 )</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>70.1 %</td> <td>( 63.7 % )</td> <td>+7.5</td> <td>( +8.2 )</td> </tr> </tbody> </table>		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)	小	76.6 %	( 69.9 % )	+11.4	( +11.7 )	中	70.1 %	( 63.7 % )	+7.5	( +8.2 )
		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)											
	小	76.6 %	( 69.9 % )	+11.4	( +11.7 )											
中	70.1 %	( 63.7 % )	+7.5	( +8.2 )												
<p>⑧ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、毎日持ち帰って家庭で利用できるようにしている学校の割合 (小63、中71)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>(R4)</th> <th>R5 全国比</th> <th>(R4 全国比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>21.8 %</td> <td>( 11.6 % )</td> <td>-10.7</td> <td>( -15.8 )</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>35.0 %</td> <td>( 17.7 % )</td> <td>-5.9</td> <td>( -13.9 )</td> </tr> </tbody> </table>		R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)	小	21.8 %	( 11.6 % )	-10.7	( -15.8 )	中	35.0 %	( 17.7 % )	-5.9	( -13.9 )	
	R5	(R4)	R5 全国比	(R4 全国比)												
小	21.8 %	( 11.6 % )	-10.7	( -15.8 )												
中	35.0 %	( 17.7 % )	-5.9	( -13.9 )												
<p>⑨ 家庭学習の課題(宿題)として、児童生徒に、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の学習を週3回以上行わせている学校の割合 (小51、中59)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R5全国比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>4.2 %</td> <td>+0.1</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>17.0 %</td> <td>+3.0</td> </tr> </tbody> </table>		R5	R5全国比	小	4.2 %	+0.1	中	17.0 %	+3.0							
	R5	R5全国比														
小	4.2 %	+0.1														
中	17.0 %	+3.0														

(校種 番号)は質問番号



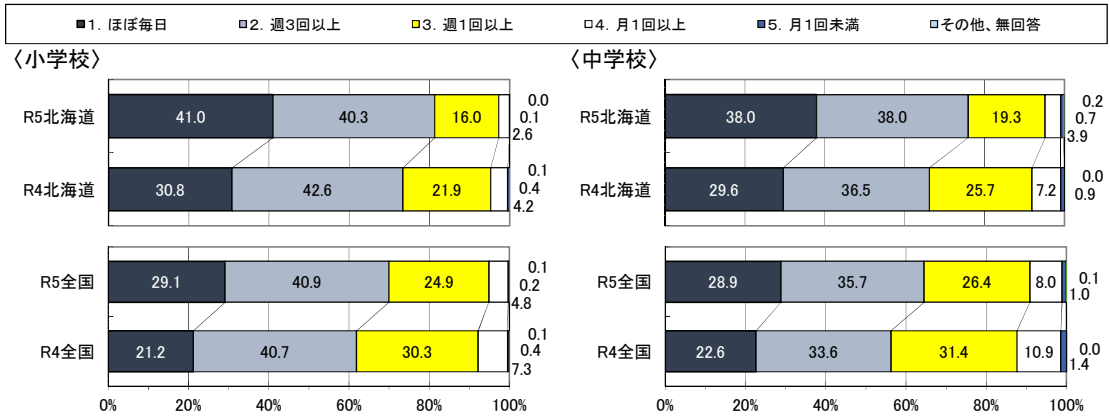
## ■主体的・対話的で深い学びにおける活用状況

### 【学校質問紙】

① 「調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」

(学校 質問番号 小56、中64)

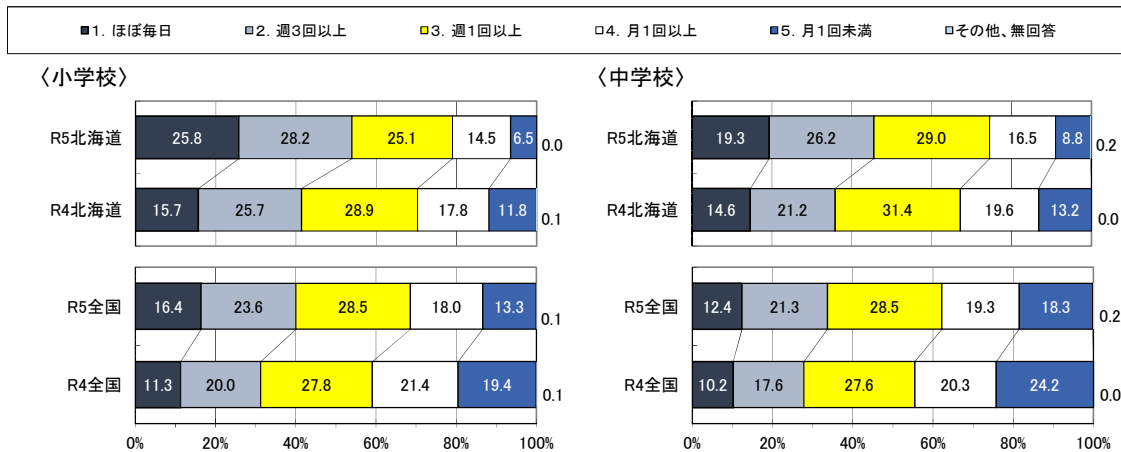
「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で10.2ポイント高く、中学校で8.4ポイント高い。全国と比べて小学校で11.9ポイント高く、中学校で9.1ポイント高い。



② 「調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか」

(学校 質問番号 小59、中67)

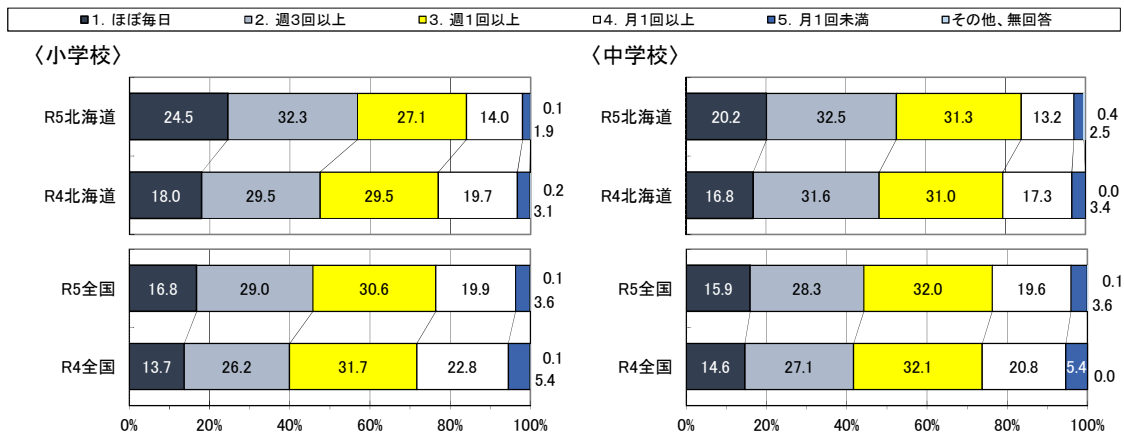
「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で10.1ポイント高く、中学校で4.7ポイント高い。全国と比べて小学校で9.4ポイント高く、中学校で6.9ポイント高い。



③ 「調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」

(学校 質問番号 小57、中65)

「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で6.5ポイント高く、中学校で3.4ポイント高い。全国と比べて小学校で7.7ポイント高く、中学校で4.3ポイント高い。



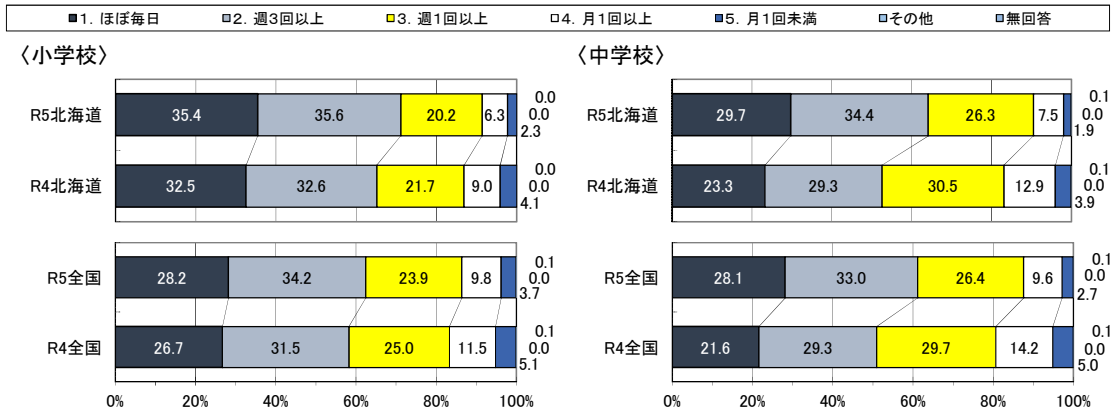
## ■家庭学習を含めた活用状況

### 【児童生徒質問紙】

#### ④「5年生[中:1、2年生]までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

(児童生徒 質問番号 小29、中33)

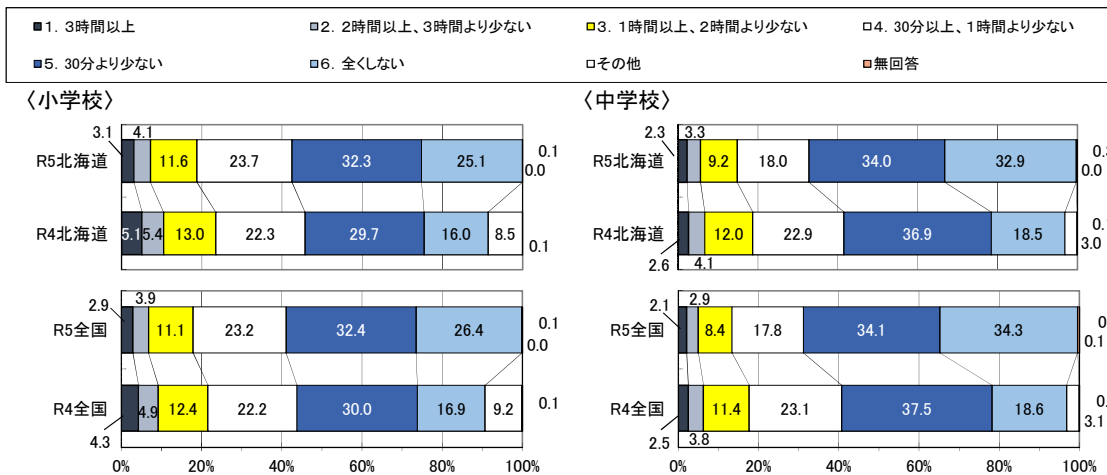
「1. ほぼ毎日」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校で2.9ポイント高く、中学校で6.4ポイント高い。全国と比べて小学校で7.2ポイント高く、中学校で1.6ポイント高い。



#### ⑤「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除きます)」

(児童生徒 質問番号 小31、中35)

「1. 3時間以上」、「2. 2時間以上、3時間より少ない」又は「3. 1時間以上、2時間より少ない」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校で4.7ポイント低く、中学校で3.9ポイント低い。全国と比べて小学校で0.9ポイント高く、中学校で1.4ポイント高い。

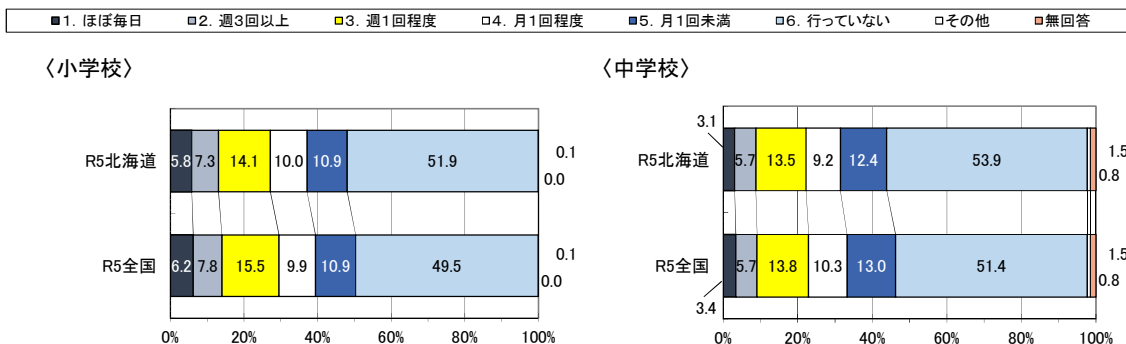


※R4回答「スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を持っていない」については、「その他」に計上。

#### ⑥「家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声の聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか」(新規)

(児童生徒 質問番号 小59、中65)

「1. ほぼ毎日」又は「2. 週3回以上」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて小学校で0.9ポイント低く、中学校で0.3ポイント低い。

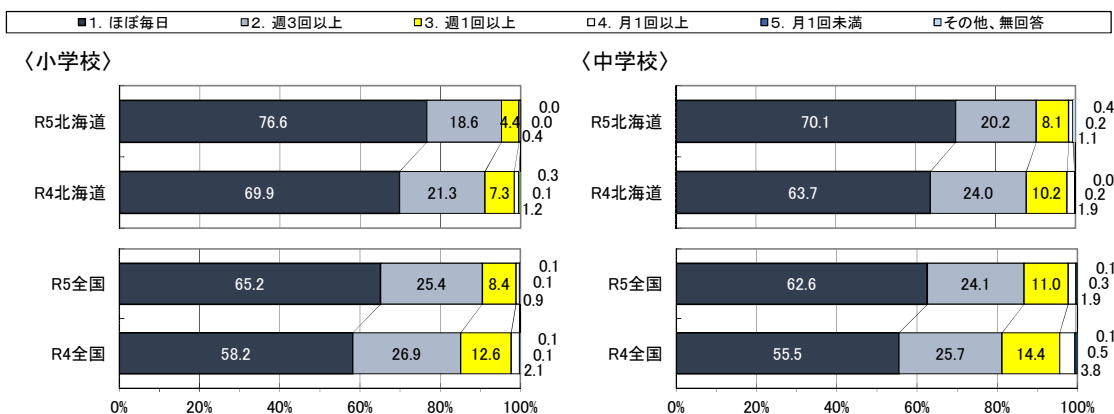


【学校質問紙】

⑦ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」

(学校 質問番号 小55、中63)

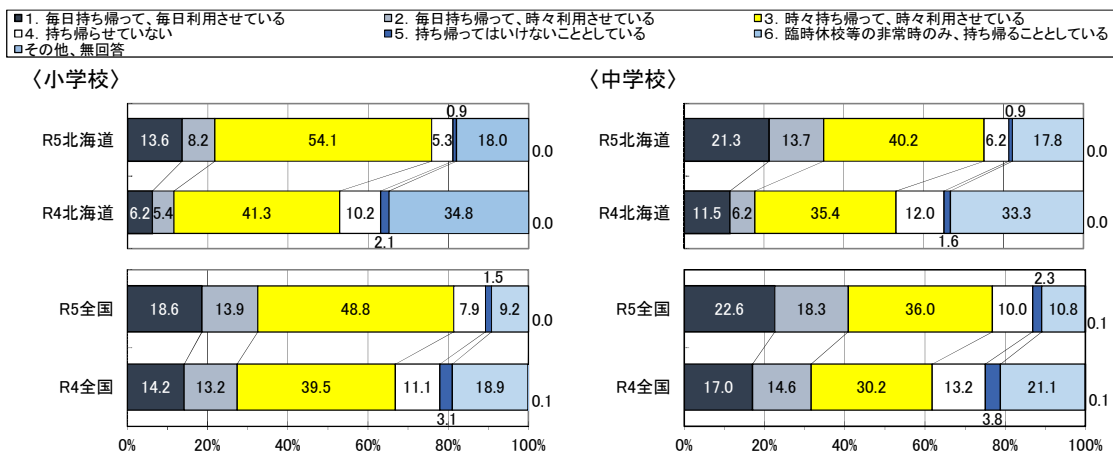
「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で6.7ポイント高く、中学校で6.4ポイント高い。全国と比べて小学校で11.4ポイント高く、中学校で7.5ポイント高い。



⑧ 「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」

(学校 質問番号 小63、中71)

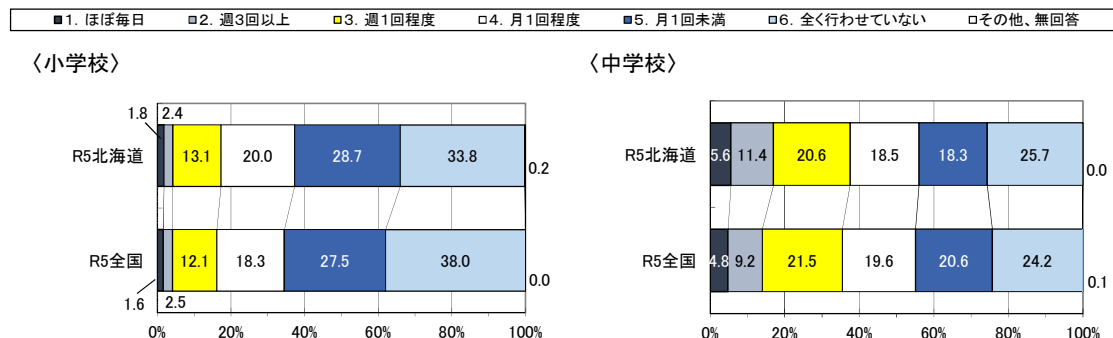
「1. 毎日持ち帰って、毎日利用させている」又は「2. 毎日持ち帰って、時々利用させている」と回答している学校の割合は、令和4年度と比べて、小学校で10.2ポイント高く、中学校で17.3ポイント高い。全国と比べて小学校で10.7ポイント低い、中学校で5.9ポイント低い。



⑨ 「家庭学習の課題(宿題)として、児童生徒にPC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の学習をどの程度行わせていますか」(新規)

(学校 質問番号 小51、中59)

「1. ほぼ毎日」又は「2. 週3回以上」と回答している学校の割合は、全国と比べて小学校で0.1ポイント高く、中学校で3ポイント高い。



## 【参考】札幌市を除く北海道の調査結果

- 国は指定都市を除く都道府県の調査結果も公表していることから、「札幌市を除く北海道の調査結果」の概要を掲載します。

### 1. 調査の概要

	対象学校数(校)	実施学校数(校) (実施率)	児童生徒数(人)
小 学 校	752	749 (99.6%)	22,004
中 学 校	474	473 (99.8%)	21,475
合 計	1,226	1,222 (99.7%)	43,479

※ 実施学校数は、4月18日に調査を実施した数。

※ 児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

### 2. 結果の概要

#### ■ 教科に関する調査

各教科の平均正答率

			小学校		中学校		
			国語	算数	国語	数学	英語
平均 正答率 (%)	R5	道 (札幌市を除く)	<b>66 [65.7]</b>	<b>60 [59.6]</b>	<b>68 [68.3]</b>	<b>48 [47.7]</b>	<b>41 [41.4]</b>
		国	67[67.2]	63[62.5]	70[69.8]	51[51.0]	46[45.6]
	R4 (H31)	道 (札幌市を除く)	64[63.9]	60[60.3]	68[67.9]	47[46.8]	53[52.7]
		国	66[65.6]	63[63.2]	69[69.0]	51[51.4]	56[56.0]
平均 正答数 (問)	R5	道 (札幌市を除く)	<b>9.2/14</b>	<b>9.5/16</b>	<b>10.2/15</b>	<b>7.2/15</b>	<b>7.0/17</b>
		国	9.4/14	10.0/16	10.5/15	7.6/15	7.7/17
	R4 (H31)	道 (札幌市を除く)	9.0/14	9.6/16	9.5/14	6.6/14	11.1/21
		国	9.2/14	10.1/16	9.7/14	7.2/14	11.8/21

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値 [道教委が独自に算出した小数値]

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値 [国が公表した小数値]

※ 国語・算数(数学)については、上段は令和5年度、下段は令和4年度、英語については、上段は令和5年度、下段は前回調査のあった平成31年度(令和元年度)の結果。

※ 中学校英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。